

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています。



積水樹脂グループ
環境・社会報告書
Environmental & Social Report
2018



CONTENTS

コーポレートガイド	2	社会性報告	33
積水樹脂グループの理念	2	コミュニケーション活動	34
トップメッセージ	3	社会貢献活動	35
企業概要	5	従業員と社内風土	37
事業分野別製品のご紹介	7	労働安全衛生活動	39
CSV報告	9	品質管理活動	40
積水樹脂グループのCSV	9	ガバナンス報告	41
活動事例報告	10	コーポレートガバナンス	41
環境報告	15	コンプライアンス	43
第6次環境3カ年計画 環境活動の取り組み	16	データ編	45
事業・製品による環境貢献	17		
事業活動における環境負荷の低減	19		
リサイクルへの取り組み	21		
環境貢献活動	22		
サイトレポート	25		

表紙について

表紙では、当社グループにおける「生物多様性の保全」をテーマとして優しいタッチのイラストに実際の生物写真を組合わせています。

- ・カスミサンショウウオ
- ・ハッチョウトンボ
- ・シュレーゲルアオガエル
- ・サギソウ
- ・イシモチソウ
- ・ムラサキミカキグサ



本報告書の対象

■対象期間

2017年度

（国内グループ会社は2017年4月1日から2018年3月31日まで）
（海外グループ会社は2017年1月1日から2017年12月31日まで）

※重要事項については、2017年度以前・以降のものも報告しています。

■対象範囲

積水樹脂株式会社および

連結対象の国内・海外グループ会社

※重要事項については、上記以外の海外グループ会社についても対象としています。

編集方針

本報告書は、積水樹脂グループの環境・社会活動についてご報告するとともに、環境・社会活動のさらなる向上を目指し、ステークホルダーのみなさんとコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。また、本報告書は会社案内も兼ねて作成し、当社グループの理念、事業活動、製品等についても報告しています。なお、掲載項目については、環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしながら、当社グループの活動に照らして、重要な項目に絞り報告しています。

本報告書と他の開示資料との関係

本報告書においては、当社グループの非財務情報(ESG情報:環境(Environment)・社会性(Social)・ガバナンス(Governance))のうち、主に環境(Environment)・社会性(Social)に関する情報を中心に掲載しております。当社グループの財務情報及びガバナンス(Governance)に関する情報の詳細につきましては、右記の資料において開示しており、これらはすべて当社ホームページからご確認いただけます。

積水樹脂(株)ホームページ

<http://www.sekisuijushi.co.jp/>



開示資料	財務情報	非財務情報(ESG情報)		
		環境 (Environment)	社会性 (Social)	ガバナンス (Governance)
環境・社会報告書	○	●	●	○
株主総会招集通知 (事業報告・計算書類・参考書類)	●			○
有価証券報告書、四半期報告書	●			●
決算短信、四半期決算短信	●			○
コーポレートガバナンス報告書 (東京証券取引所への提出書類)		○	○	●
株主通信 (期末報告書・中間報告書)	○	○	○	○
アニュアルレポート(英文)	○	○	○	○

●: 具体的に開示 ○: 概要・若干の言及

積水樹脂グループは、価値ある製品の創造を通じて 社会の福祉と進歩に貢献します

経営理念

積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。



経営ビジョン2020

『価値ある製品の創造を通じて“世界の安全・安心”“地球環境の保全”に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。



当社グループの活動とSDGs^(※)への貢献

当社グループ活動の中には、国連が提唱する「SDGs」に貢献するものがあります。本報告書では、当社グループの主要な活動について、「CSV報告」「環境報告」「社会性報告」の中で対応する「SDGs」の目標を明示しています。

積水樹脂グループは、経営理念である「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献」することで、「SDGs」へも貢献します。

- 「CSV報告」では、事業を通じた「社会的な課題の解決」と「企業の成長」の両立を目指した取り組み事例を報告しています。
- 「環境報告」では、地球環境調和型製品の紹介や生物多様性の保全に向けた取り組みについて報告しています。
- 「社会性報告」では、社会貢献活動、職場環境・人材育成、品質管理活動などの主要な取り組みを報告しています。



(※)「SDGs」とは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルな目標であり、政府・企業・個人が、取り組むことができる課題に積極的に取り組むことが推奨されています。

“安全・安心” “環境保全”を基軸に 積水樹脂グループの総合力をさらに高めて 「私たちだからできる解決策」をご提案してまいります



代表取締役会長 兼 CEO

福井 彌一郎



代表取締役社長 兼 COO

馬場 浩志

事業を通じた社会的課題の解決

私たちを取り巻く社会は、少子高齢化、環境問題、自然災害、インフラ老朽化をはじめ、さまざまな分野で課題が顕在化するとともに、高度化、複雑化しております。このような中、2015年に国際連合においてSDGs(持続可能な開発目標)が採択されましたが、今や企業には、経済的発展だけではなく、さまざまな社会的課題の解決への貢献が強く求められております。

積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、幅広い分野で、多様な製品を皆様の暮らしや社会にお届けしております。この経営理念の実践、つまり、事業活動を通じて社会的な課題に対する解決策をご提供することが、当社グループが社会から信頼され、持続的に成長していく原動力であると考えております。

そして、経営理念を補完する「経営ビジョン2020」において、かねてより事業活動の基軸としていた「安全・安心」、「環境保全」への貢献をより強力に、グローバルに展開していく姿勢を明確にし、「安全・安心なみちづくり」、「災害に強いみちづくり」、「環境に配慮した製品による環境負荷の低減」などに向けた取り組みを、積極的に進めております。



「災害に強いまちづくり」に向けて

例えば、本年6月に発生した大阪北部地震におけるブロック塀の倒壊被害を受けて、学校・通学路のみならず、一般の建築物においても「塀の安全対策」が喫緊の課題となっていますが、耐久性と軽量性、安全性を兼ね備えた当社「めかくし塀」製品は、この課題の解決策となりえます。

また私たちは、阪神・淡路大震災直後から減災・防災対策製品の研究開発を積み重ねており、そこで培ったノウハウと製品ラインナップにより、「災害に強いまちづくり」に貢献する総合的なご提案を行うことができると考えております。

減災・防災対策以外にも、様々な課題に対する解決策をご提供しています。長く培ってきた技術力に基づく特色ある製品群と、お客様の多様なニーズに応える提案力、そして幅広い事業領域で活動する当社グループの“総合力”こそが私たちの強みであり、私たちだからご提供できる価値が必ずあると信じて、これからも事業活動を通じた社会貢献を追求してまいります。

継続的に取り組む社会貢献活動

社会貢献活動につきましては、「国連生物多様性の10年日本委員会」に対する環境省と協力した支援活動や「公益財団法人交通遺児育英会」へ製品の収益の一部を寄付する取り組みを継続して行っております。

「継続は力なり」の考え方にに基づき、今後も、当社グループの事業と関連する諸団体と連携し、社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。

持続可能な発展にむけた環境活動

環境活動としましては、中期的な活動計画として「第6次環境3ヵ年計画(2016~2018年度)」に基づき、持続可能な発展に向けた環境活動に取り組んでおります。

2017年度は地球環境調和型製品の拡大や、CO₂排出量・廃棄物排出量削減などにおいて、目標以上の成果を出すことができました。

また、生物多様性の保全活動においては、事業所内の希少種保全だけでなく、近隣企業と連携しトンボの保全を通じた地域の活動にも取り組んでおり、本活動は「しが生物多様性大賞」を受賞するなど、外部からの評価もいただきました。

これら環境活動に継続的に取り組んでいくとともに、事業活動と環境保全を両立させるべく、更に活動を強化させてまいります。

当社グループは、多岐にわたる社会の要請に応えることにより、社会とともに継続的な成長を実現するべく、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを一層深めていきたいと考えております。

今後とも、ご意見、ご指導をいただければ幸いです。

企業概要

世界の“安全・安心” “地球環境の保全”に
貢献できる企業グループを目指し、
グローバル展開を進めています

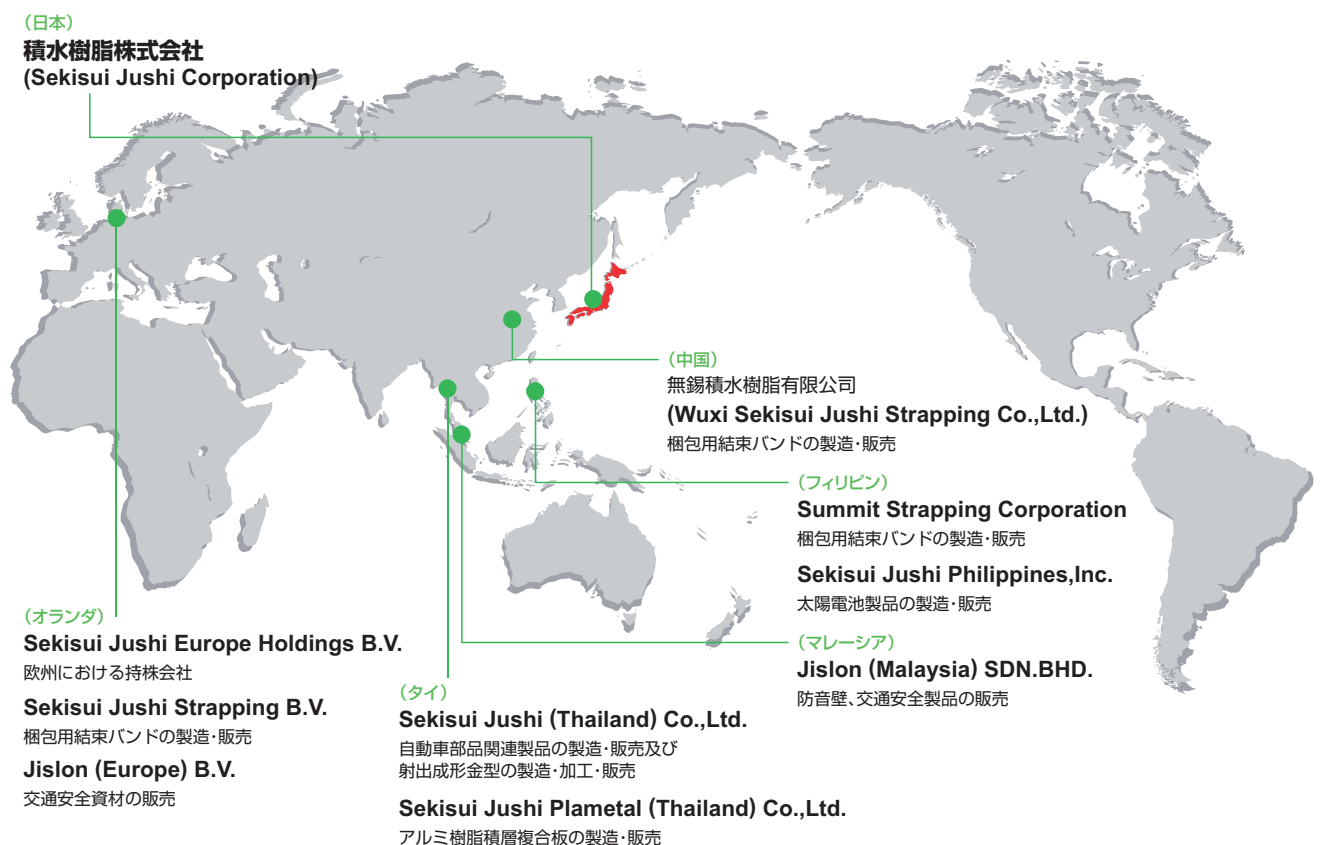
会社概要 (2018年3月31日現在)

社名	積水樹脂株式会社
本店所在地	〒530-8565 大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日	1954年(昭和29年)11月26日
URL	http://www.sekisuijushi.co.jp/
資本金	12,334百万円
従業員数(連結)	1,422名
連結対象子会社	27社
持分法適用子会社	2社



積水樹脂グループのグローバルネットワーク

海外グループ会社



国内グループ会社

()内は所在地

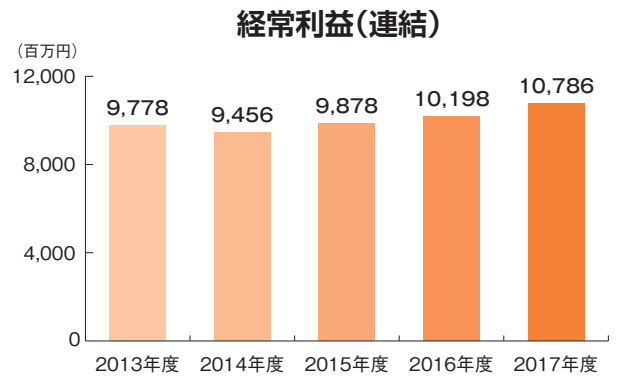
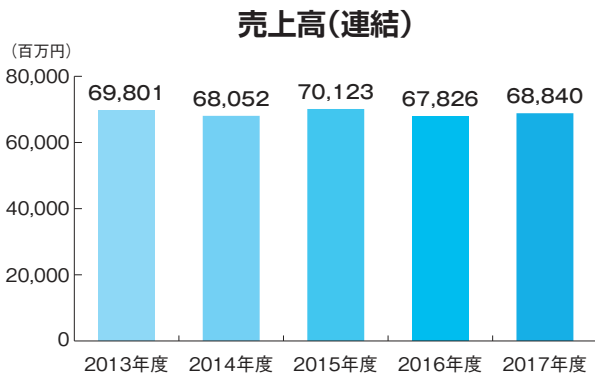
東北積水樹脂株式会社 (宮城)
関東積水樹脂株式会社 (群馬)
積水樹脂キャップアイシステム株式会社 (東京)
日本ライナー株式会社 (東京)
積水樹脂プラメタル株式会社 (長野)
エスジェイシー寿株式会社 (三重)

スベアシア株式会社 (滋賀)
オーミテック株式会社 (滋賀)
積水樹脂商事株式会社 (大阪)
積水樹脂産商株式会社 (大阪)
サンエイポリマー株式会社 (山口)
宮崎積水樹脂株式会社 (宮崎)
ロードエンタープライズ株式会社 (鹿児島)

土浦つくば積水樹脂株式会社 (茨城)
北陸積水樹脂株式会社 (石川)
滋賀積水樹脂株式会社 (滋賀)
広島積水樹脂株式会社 (広島)
その他機能分社

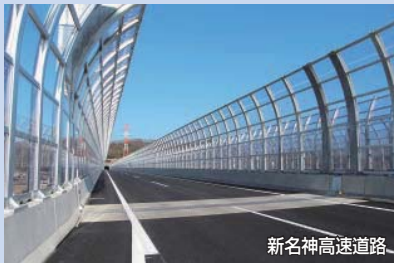


連結業績の推移



事業トピックス(2017年度)

■アルミ枠透明板(高規格道路に採用)



防音効果の高さや眺望性に優れたアルミ枠透明板が評価され、新名神高速道路に採用されました。

■人工芝(プロ野球フランチャイズ球場に採用)



スポーツ用品メーカーと共同開発した野球専用人工芝が、プロ野球フランチャイズ球場「京セラドーム大阪」「ZOZOマリンスタジアム」に採用されました。

■防音めかくし塀(幼稚園・保育園に採用)



幼稚園・保育園等の騒音対策として採用され、周辺住民の住環境保全に貢献しました。

■弾性車止め(イギリス市街地に採用)



車両進入禁止対策として高い意匠性や弾性構造による維持費用低減を評価され採用となりました。

■国際的な展示会への継続出展



2018年3月にオランダで開催された世界最大の道路交通インフラの展示会へ交通安全製品を中心に出品し、多くの方にご来場いただきました。



2017年5月にタイ王国バンコクで開催された建材・住宅設備の展示会へ、アルミ樹脂積層複合板及び装飾建材製品を出品し、多くの方にご来場いただきました。

事業分野別 製品のご紹介

積水樹脂グループは、独自の技術により 特色ある製品の事業化をはかっています

公共分野

交通・景観 関連製品

交通安全資材、景観資材の総合メーカーとしての技術力・提案力を活かし、安全・安心な道づくり、街づくりに貢献します。

防音壁



透明板+統一型防音壁
道路反射鏡



ハイドロクリーンミラー

車線分離標



車線分離標「ポールコーン」
路面標示材



シート標示材「ジスラインS」

電子システム製品



自発光線形誘導 プロジェクションガイド
道路標識



太陽電池式照明灯
「ソーラールミT2」+「路側標識」

シェルター



BRT シェルター「UBR」
ソーラー照明灯



ソーラー照明灯「SLV2」

防護柵



勾配自在柵「FXTC」
公園資材



災害対応ベンチ「かまどベンチ」

車止め



弾性車止め「DK-5」
プラスチック擬木



テンダーウッド「PG タイプ柵」

高欄



橋梁用投物防護柵「クラスターバリア」
人工木材



スーパーオレンジウッド
デッキ材

スポーツ施設 関連製品

耐久性、安全性、すぐれたプレー性を兼ね備えた人工芝「ドリームターフ」は、全国の学校や自治体のグラウンドにご採用いただいています。

スポーツ用人工芝



ロングバイル人工芝「ベースボールターフ」
(ZOZOマリンスタジアム 撮影:コイト電工(株)様)



テニス用人工芝「サンドグラス」

エクステリア用人工芝



景観用人工芝「ガーデングラス」

グループ会社 製品

路面標示材



「ロードライン7000」
(日本ライナー(株))

交通規制材



成型品規制材「バリロード」
(日本ライナー(株))

舗装工事



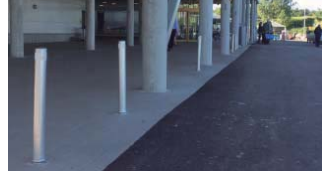
遮熱性舗装工事
(日本ライナー(株))

車線分離標



ポールコーン(スイス)
(JISLON(EUROPE)B.V.)

車止め



弾性車止め(フィンランド)
(JISLON(EUROPE)B.V.)

道路反射鏡



ハイドロクリーンミラー(ベルギー)
(JISLON(EUROPE)B.V.)



住建材関連製品

景観に調和するシンプルなデザインでありながら、騒音などの住環境を取り巻く諸問題の対策に貢献する外構製品や、独自の技術により強度と軽量性を実現した建築内装製品をご提供しています。

メッシュフェンス



メッシュフェンス「G10」
物流センター

めかくし塀



めかくし塀「P型」
店舗外構

防音めかくし塀



防音めかくし塀「PS-4型」
保育園外構

縦格子フェンス



縦格子フェンス「ETW50HC」
美術館

自転車置場



サイクルシェルター「GRシリーズ」

大型引戸



大型アルミ複式引戸「2型(太格子タイプ)」

内装建材



メタカラー建材
鏡面内装材「SKW」
中学校

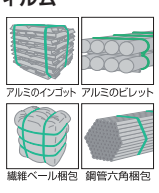
総合物流資材・アグリ関連製品

梱包用結束バンド「PPバンド」をはじめ、梱包資機材など物流資材の総合メーカーとして、作業の効率化・合理化等に貢献します。

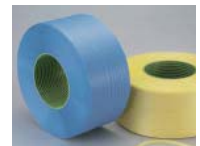
梱包用結束バンド、フィルム



重梱包用PETバンド



アルミのインゴット
アルミのピレット
繊維ペール梱包
鋼管六角梱包



機能性バンド「ゆうバンド」



梱包用フィルム「レスコア」

梱包機械



ストレッチ包装機

安全柵



アルミ枠防音タイプ

耐久性・作業性に優れた農業・施設園芸資材が、快適な農業・園芸環境づくりに貢献します。

農業資材



農業ハウス用資材「寒冷地パイライン」

獣害対策



成木保護ネット

園芸資材



農園芸用ポール「イボ竹」

グループ会社製品

仮設防音パネル資材



プラメタル「ビルガード」(積水樹脂プラメタル株式会社)



「防音アフィラウォール」(仮囲い)
(積水樹脂プラメタル株式会社)

デジタルピッキングシステム



アンサーキット
(積水樹脂キャップアイシステム株式会社)

組立パイプシステム



作業台
(スペースイ株式会社)

海外向けバンド



PPバンド
(SEKISUI JUSHI STRAPPING B.V.)
(Summit Strapping Corp.)
(無錫積水樹脂有限公司)

OPPフィルム



花束用フィルム
(サンエイポリマー株式会社)

自動車部品関連製品



左: ドア内装
右: 車内ミラー
(Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd.)

CSV報告

積水樹脂グループのCSV

「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、製品づくりで社会に貢献したいという想いで企業活動に取り組んでおり、事業を通じて社会的な課題に対する解決策を提供することにより、CSVの実現を目指しています。

CSV: **C**reating **S**hared **V**alue (共有価値の創造)

社会問題の解決と企業の成長を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出す取り組みです。

社会とともに積水樹脂グループが成長



経営理念

プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

経営ビジョン

『価値ある製品の創造を通じて“世界の安全・安心” “地球環境の保全”に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。

主要な取り組みについては、
環境報告(P.15～)
社会性報告(P.33～)
ガバナンス報告(P.41～)
をご参照ください。



活動事例報告(事業を通じた社会的課題の解決)

本報告書では、当社グループの主要なCSVテーマに対する活動事例をご紹介します。

各活動事例について、国連が提唱する「SDGs^(※)」に貢献できると考える項目を以下に示しています。

(※)SDGs：持続可能な開発目標。概要は2ページに記載しています。

CSVテーマ

貢献可能な
SDGsの目標

活動事例① 減災・防災対策

▶P.11



(背景)
地震や津波、土砂災害や洪水などの自然災害による被害を軽減するために、「災害に強いまちづくり」に向けた取り組みが全国各地で進められています。

(当社グループの取り組み)

- ブロック塀からめかくし塀への改修
- 避難路・避難場所の対策



活動事例② バリアフリー対策

▶P.12



(背景)
急速な高齢社会への対応や訪日外国人の増加、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを受けて、バリアフリー化が進められています。

(当社グループの取り組み)

- 公共空間のバリアフリー化への提案
- BRT(バス高速輸送システム)整備による高齢化社会への対応



活動事例③ 人手不足対策(省人・省力化)

▶P.13



(背景)
少子・高齢化に伴う労働人口の減少を受けて、様々な業界で、省人・省力化、生産性の向上が課題となっています。

(当社グループの取り組み)

- 工場・物流現場への提案
- 建築現場への提案



活動事例④ 暑さ対策

▶P.14



(背景)
近年の地球温暖化により気温や海面温度の上昇に加え、都市部ではヒートアイランド現象の深刻化に伴う訪日外国人へのホスピタリティや熱中症予防などの対策が課題となっています。

(当社グループの取り組み)

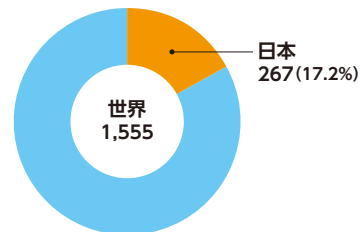
- 遮熱舗装によるヒートアイランド対策
- 人工芝によるスポーツフィールドの温度上昇抑制



背景

地震や津波、土砂災害や洪水など、自然災害が多発する日本では、発生そのものを防ぐことは困難ですが、可能な限り被害を軽減するために、全国各地で様々な対策、整備が進められています。当社グループは、長く培った減災・防災対策のノウハウと幅広い製品群による総合提案で、「災害に強いまちづくり」をサポートしています。

マグニチュード6.0以上の地震回数(2008~2017年)
世界の災害に占める日本の災害の割合



(資料) 気象庁「震度データベース」、米国地質調査所(USGS)ホームページの情報より作成

活動報告

ブロック塀からめかくし塀への改修

地震により倒壊のおそれがある古いブロック塀を撤去して、軽量で強度のある「めかくし塀」を設置する対策が全国で進められています。また、あわせて防音対策が必要な場合には、防音めかくし塀が活用されています。

■めかくし塀



ブロック塀(改修前)



ブロック塀を撤去してめかくし塀を設置することで生活道路、通学路の安全対策となります。

■防音めかくし塀



住宅地の幼稚園・保育園など、防音対策が必要な場合には、防音めかくし塀が活用されています。

避難路・避難場所の対策

災害発生時に迅速かつ安全に避難するための避難路・避難場所の整備や、誰もが直感的に理解できる避難情報の提供などにご活用いただける各種製品の総合提案を進めています。

■津波避難タワー



巨大津波から住民を守るために整備が進められている津波避難タワーの通路に、当社の防護柵が活用されています。

■避難ルートの夜間対策



昼間
(ソーラールミL1)



夜間発光時

避難路の夜間の安全対策として照明を設置する整備において、小型ソーラー照明灯「ソーラールミL1」が活用されています。既存の防護柵の支柱に後付け可能で、配線不要の太陽電池式照明灯です。

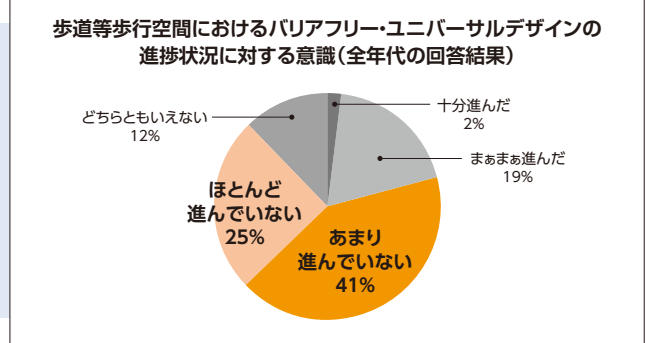
■徒歩帰宅支援



徒歩で帰宅する被災者を誘導するルート標示が整備されています。(ジスラインDX)

背景

高齢社会への対応や訪日外国人の増加、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを受けて、公共・民間を問わないバリアフリー化が進められています。当社グループは、ユニバーサルデザインの視点を入れた製品開発を通じて、バリアフリー対策への提案を進めています。



(出典) 内閣府「平成29年度バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書」

活動報告

公共空間のバリアフリー化への提案

国のガイドラインに沿って各地で整備が進められている鉄道駅やバスターミナルなどの交通結節点のバリアフリー化に、景観資材が活用されています。

■シェルター



施設入口から連続する通路シェルターにより、雨にぬれずにバス、タクシー、自家用車に乗り込むことができます。

■折畳ベンチ



幅員の限られた歩道にも設置可能な折りたたみ式のベンチです。

■多国語サイン(ガイドタック)



多国語表示とピクトグラムで外国の方にも理解しやすい誘導案内情報を、路面や壁面に標示することができます。

BRT(バス高速輸送システム)^(※)整備による高齢化社会への対応

BRTは、LRT(路面電車)に比べ整備コストが安く、高齢化社会に適した交通手段として注目されています。日立電鉄の廃線跡地を活用したBRT整備において、バス停シェルター「アーバンルーフ」が活用されています。

(※)BRT(Bus Rapid Transit): 独立した専用道路が確保され、車両や停留所、運行管理を統合した交通であるバス高速輸送システム。路線バスより早く、決まった時間に、安全に運行できることや、鉄道より自由な停留所配置や運行ルートを選択が可能といった利便性の高さが特徴。

■アーバンルーフ



大きな屋根、背面と左右側面の風防、2基の簡易ベンチで利用待ち時間を快適にします。

■簡易ベンチ



短時間休憩を考慮した小型のベンチを備えます。荷物置きにも利用できます。

■BRTシステム

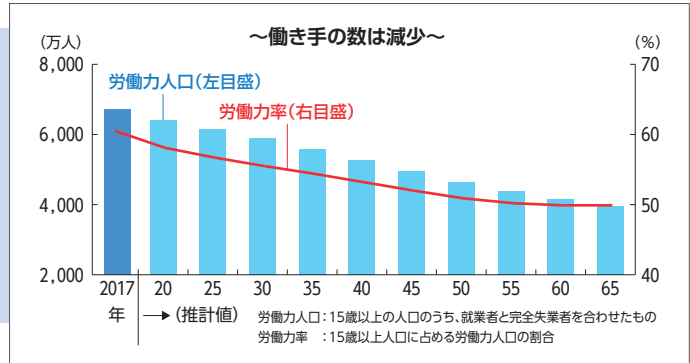


シェルター内の表示板では、センターとの通信でバスの運行状況や到着時間をリアルタイムで把握できます。

人手不足対策(省人・省力化)

背景

少子・高齢化に伴う労働人口の減少を受けて、様々な業界で、省人・省力化、生産性の向上が課題となっています。
当社グループでは、工場・物流現場や建築現場などでの人手不足対策に貢献する様々な製品を開発し、提案を進めています。



(資料) 総務省「労働力調査年報」(2017年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2017年4月)より作成

活動報告

工場・物流現場への提案

工場や物流現場での梱包作業を自動化するストレッチ包装機や、仕分け・搬出作業の省人・省力化に役立つデジタルピッキングシステムなどをご提案しています。

■ストレッチフィルム包装機



■デジタルピッキングシステム

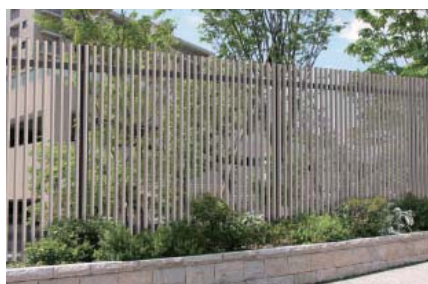


(積水樹脂キャップアイシステム㈱)
工場の組立ラインや物流センターの仕分け段階で行われているピッキング作業を伝票等を見ながらではなく、デジタル表示器を使用し、素早くかつ正確なピッキング作業を行うことができます。

建築現場への提案

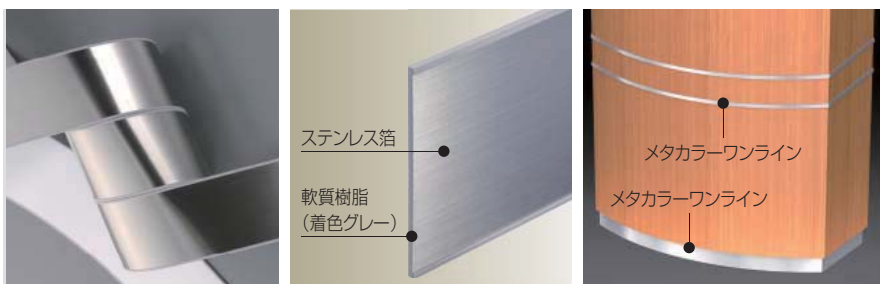
建築現場での職人不足や職人の高齢化に対応するため、軽量化・コンパクト化して現場作業性の向上を図ったフェンスや巾木など建設用資材をご提案しています。

■アルミスチールハイブリッド縦格子フェンス



軽量のアルミと高強度なスチールを組み合わせせており、十分な強度を有し、かつ、同等規格の従来品より軽量化で施工しやすいフェンスです。

■メタカラー ワンライン

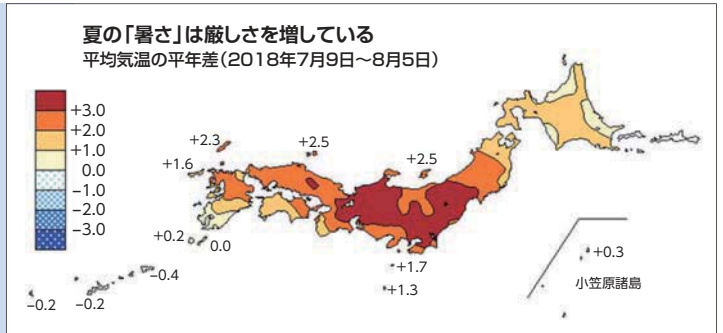


軽量で曲がりやすい素材(樹脂+ステンレス)を採用したことで、従来の巾木より運搬効率が上がり、また現場での加工が容易となった、施工しやすい巾木です。

背景

近年の地球温暖化により地球全体の気温が上昇していることに加え、都市部ではヒートアイランド現象の影響で熱中症予防などの暑さ対策が社会的な課題となっています。

当社グループは、路面の蓄熱を抑えて温度上昇を抑制する遮熱性舗装や、スポーツフィールドの温度上昇を抑制する高機能人工芝などを通じて、暑さ対策をサポートする提案を進めています。



(出典) 気象庁「前4週間の気温の平年差」(2018年8月6日時点)

活動報告

遮熱性舗装によるヒートアイランド対策

当社グループ会社である日本ライナー(株)の遮熱性舗装は、日射エネルギー量の約50%を占める近赤外線を効率的に反射し、舗装路面の温度上昇を抑制する舗装です。これにより、歩行空間や沿道の熱環境が改善され、ヒートアイランド現象の緩和が期待されます。



超低臭型 道路用 遮熱性舗装(日本ライナー(株))

人工芝によるスポーツフィールドの温度上昇抑制

■Viu(微雨)システム (長谷川体育施設(株)、(株)テクノコアとの共同開発)

人工芝は熱を吸収しやすく、炎天下では表面温度が70度近くに達することがあります。体力の消耗や熱中症を防ぐため、現在はホースなどで散水するのが一般的ですが、手間がかかるうえ、水量の調節も難しいという問題がありました。

Viu(微雨)システムは、人工芝に特殊樹脂製ノズルを設置し、ノズルから少量の水を散水して、日射による表面温度の上昇を抑制します。

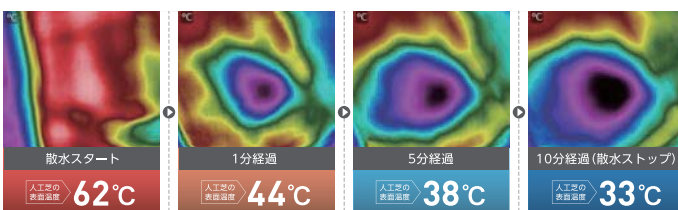
【特徴】

■日射による表面温度の上昇を抑え、快適な環境をサポートします。

■人工芝を利用するさまざまな人の熱中症対策に役立ちます。

■粒状の水を効率よく散水し、わずかな水量で温度を下げます。

【Viu(微雨)システムによる表面温度変化(サーモテスト)】



人工芝(7×5m)に10分間散水し表面温度の変化をサーモグラフィーにより測定
※当社の試験施設における独自試験結果(実施:2017年8月)
※社内試験における測定結果であり、保証値ではありません。



環境報告

「地球のために 子供たちの未来のために」

環境経営理念

我々は、かけがえのない「地球」を、環境破壊・資源枯渇など、地球環境問題から保護することを最重要課題と認識し、地球に優しい環境調和型製品・事業活動を通じて「地球と人類の永続的調和」及び「人間性豊かな生活環境づくり」に貢献します。








環境経営方針

「資源は節減・循環、廃棄はゼロ、環境は改善・保全」

1. 地球環境に対し、「廃棄はゼロ、環境は改善・保全」を通じて社会的責任を果たします。
2. 地球環境調和型製品の開発を通じて、「資源は節減・循環」に貢献します。

当社グループの環境に関する取り組みのうち、国連が提唱する「SDGs^(※)」に貢献できると考える項目を以下に示しています。

(※)SDGs：持続可能な開発目標。概要は2ページに記載しています。

当社グループの取り組み		貢献可能なSDGsの目標	
事業・製品による環境貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地球環境調和型製品の開発 	 	
事業活動における環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 省エネルギー ■ CO₂排出量削減 ■ 化学物質削減 ■ 廃棄物削減 	 	
リサイクルへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済み製品のリサイクル 		
環境貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境コミュニケーション ■ 生物多様性の保全活動 	 	



積水樹脂グループは、持続可能な発展にむけて環境保全、環境教育、環境調和型製品の開発及びCO₂排出量削減などの取り組みを推進しています。

第6次環境3ヵ年計画（2016～2018年度）環境活動の取り組み

事業・製品による環境貢献 17～18ページ

地球環境調和型製品の拡大

<目標>

地球環境調和型製品

- ・売上高比率：34%以上
- ・新製品数：平均40件以上/年

<2017年度実績>

売上高比率
36.3%
新製品数
44件/年

環境貢献活動 22～24ページ

- ・環境コミュニケーション
- ・生物多様性の保全活動

事業活動における環境負荷の低減 19～20ページ

CO₂排出量

原単位※
2015年度比

国内生産事業所
<目標>
2%以上削減

<2017年度実績>
12.5%削減

国内オフィス
<目標>
2%以上削減

<2017年度実績>
6.8%削減

廃棄物排出量

国内生産事業所
<目標>
2%以上削減

<2017年度実績>
8.1%削減

化学物質排出・移動量

PRTR法に基づく化学物質
<目標>
2%以上削減

<2017年度実績>
0.5%削減

※ 原単位とは、製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素（エネルギー、原材料など）の量及び排出される環境負荷量（CO₂、廃棄物、化学物質）です。

生物多様性の保全

滋賀工場には環境省や滋賀県で絶滅危惧種に指定されている野生生物が多く生息しています。このような希少な環境を未来へつなげるため、私たちは生物多様性の保全活動に取り組んでいます。



スイラン



環境省事業
モニタリング1000里地調査



シラン



ハッチョウトンボの羽化



シュレーゲルアオガエルの卵



孵化前のカスミサンショウウオ

※この掲載写真は当社敷地内にて撮影したものです。

製品の開発・設計から使用・廃棄までの段階で 環境に配慮した地球環境調和型製品を通じて、 環境負荷の低減に取り組んでいます

地球環境調和型製品とは

社内基準を満たす環境面で有効な製品です

地球環境調和型製品は、以下のいずれかの社内基準を満たす、環境面で有効な製品としております。

基準 1

製品のライフサイクルの
いずれかの段階において
環境負荷を低減させる
ように設計された製品

基準 2

納入先が指定する
環境基準を満足する
ように設計された製品

基準 3

エコマークおよび
各自治体の環境認定
基準に適合した製品

パネル部材の無溶接化

パネル部材接合部を無溶接化し生産
工程でのエネルギー使用量を削減



■使用例



勾配対応柵「フレックスロープ」

離型紙レス

離型紙をなくすことで使用資材を削減



■使用例



「ジスラインS」

生産工程での
環境負荷低減



地境製 環境製

製品売上高比率

36.3%

太陽エネルギー
の利用



SLキャップ 柵支柱取付



「フレックスフラッシュ」



「ソーラールミ L1」



「ポールコーンルミ」



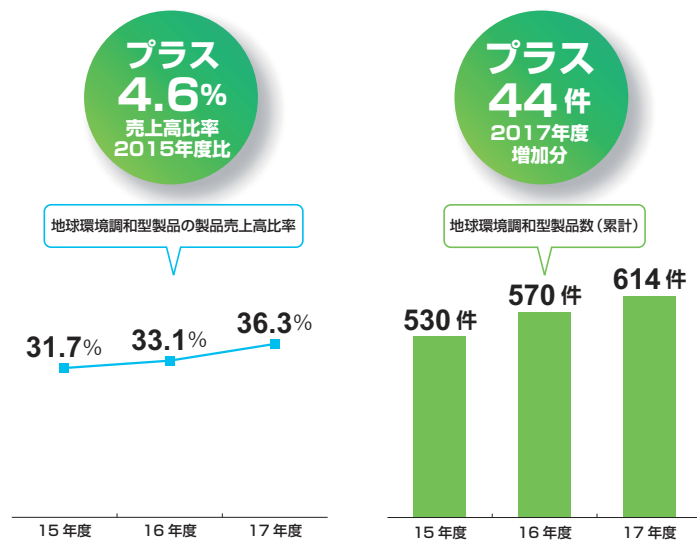
セバレート型ソーラーLED照明灯

冠水対応ソーラー照明灯

地球環境調和型製品の売上高比率と新製品上市件数

製品売上高比率は36.3%、新製品上市件数は44件

当社グループは、事業活動を通じた環境負荷低減への取り組みとして、地球環境調和型製品の開発と普及を推進しています。2017年度の地球環境調和型製品の製品売上高比率36.3%と、目標を達成しました。今後も地球環境調和型製品の更なる開発と普及に注力していきます。



地球環境調和型製品の売上高比率は、以下の式により算出します

$$\text{地球環境調和型製品の売上高比率} = \frac{\text{地球環境調和型製品売上高} \text{ (※1)}}{\text{全製品売上高} \text{ (※2)}}$$

- (※1) 2002年度以降認定された地球環境調和型製品の当該年度の売上高
- (※2) 当該年度の製品売上高合計

地球環境調和型製品の一例



灯具のLED省電力化
街路灯



消費電力低減
デジタルピッキングシステム

広域認定制度 リサイクルデリニュエーター



「景観型リサイクルデリニュエーター」

廃り子利用カラー舗装材



「ジスラインカラープラス」

廃タイヤチップ弾性車止め



弾性車止め「DK-5」

再生ポリプロピレンバンド



環境配慮型梱包用結束バンド「プライテックス」

廃プラスチック再生人工木



オレンジウッドデッキ



オレンジウッド かまどベンチ



テンダーウッド柵

地球環境調和型製品

製品総数
614件

再生材の利用



エネルギー使用量、CO₂・廃棄物排出量削減を 環境経営の重要課題と位置づけ、 生産・オフィス部門でさまざまな取り組みを行っています

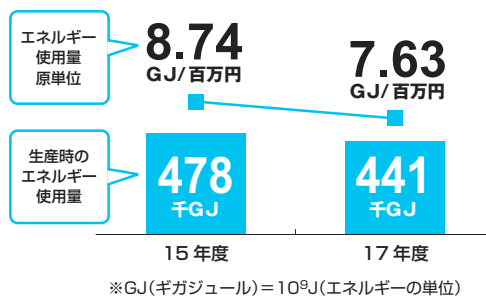
生産事業所のエネルギー使用量、CO₂排出量削減への取り組み

エネルギー使用量原単位12.7%削減、
CO₂排出量原単位12.5%削減 (2015年度比)

生産事業所において、生産プロセスの改善や省エネ機器への更新、エネルギー転換などを積極的に行い、生産時のエネルギー使用量や、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。2017年度は2015年度比で、国内においてのエネルギー使用量原単位は12.7%、CO₂排出量原単位は12.5%と大幅な削減につながりました。海外においても2.7%のCO₂排出量原単位の削減となりました。今後も、生産プロセスの改善や省エネ設備の導入、エネルギーの見える化・節電対策など、ハード・ソフトの両面から、省エネ活動の強化をはかっていきます。

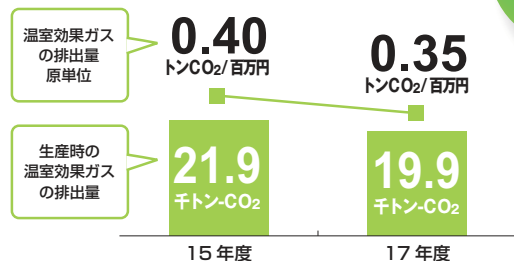
生産時の
エネルギー使用量と
原単位

原単位
12.7%
削減



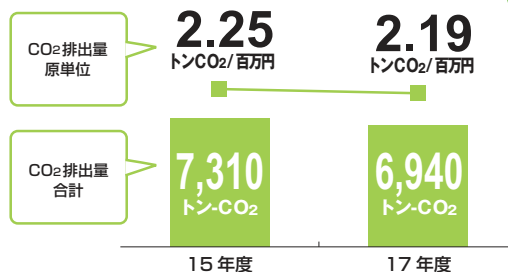
生産時のCO₂排出量と原単位 国内事業所

原単位
12.5%
削減



生産時のCO₂排出量と原単位 海外事業所

原単位
2.7%
削減



(注)海外生産事業所においては、売上高を2012年の為替レートで円換算し、原単位を算出しています。

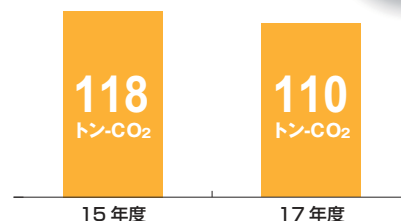
オフィスにおける省エネルギーの推進

オフィスのCO₂排出量6.8%削減 (2015年度比)

オフィスにおいても省エネ・節電の取り組みを推進しています。クールビズの推進、パソコン・ディスプレイの省電力モード化等の省エネ活動を、当社グループ全体で継続して取り組んでいます。このような活動により、2017年度のCO₂排出量削減実績は、2015年度比で6.8%削減となりました。

オフィスのCO₂排出量

排出量
6.8%
削減



PRTR法 対象化学物質排出量・移動量削減への取り組み

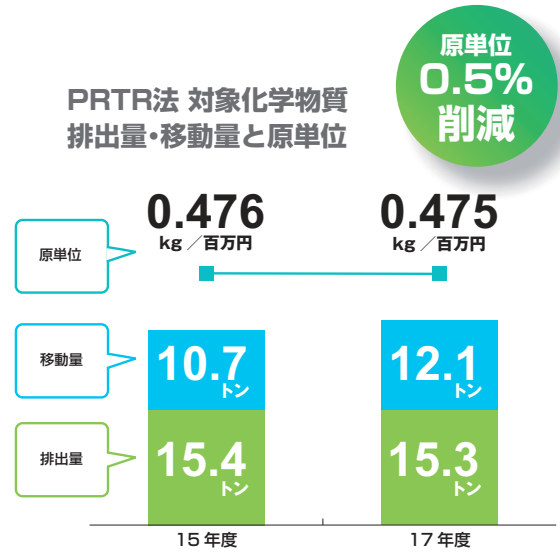
PRTR法(※)対象化学物質の 排出量・移動量原単位0.5%削減 (2015年度比)

PRTR法 対象化学物質の削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや、製造プロセスにおける使用効率の改善などに取り組んでいます。また、当社グループ共通の化学物質管理の指針を策定し、化学物質の使用量管理、紛失・盗難防止の強化にもつとめています。2017年度のPRTR法対象化学物質の排出量・移動量(原単位)は2015年度比で0.5%の削減となり、目標の2%削減には至りませんでした。今後、目標達成のため、更なる使用効率の改善や対象化学物質の低含有タイプへの切り替えを進めていきます。

(※)PRTR法

PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

PRTR法 対象化学物質 排出量・移動量と原単位



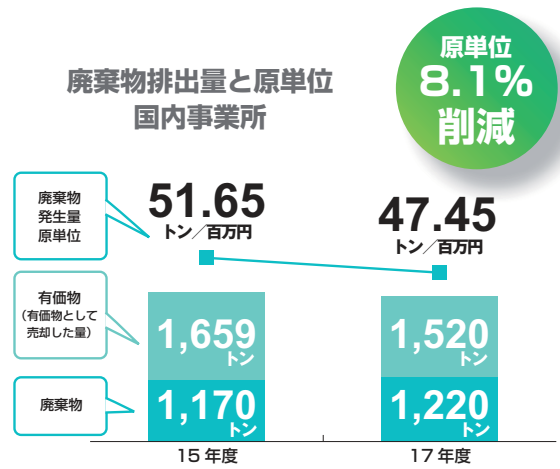
原単位
0.5%
削減

生産事業所における廃棄物削減の取り組み

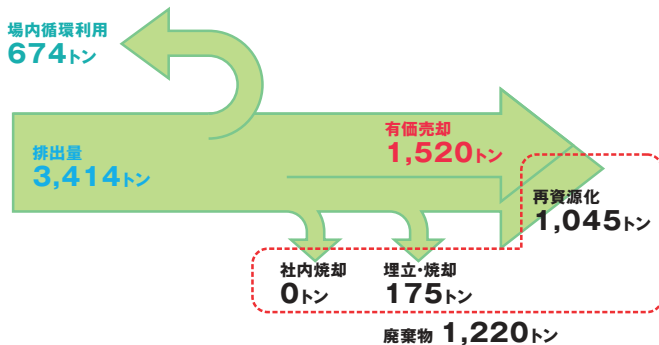
有価物も含めた廃棄物の削減に取り組んでいます

2010年度より、「排出物」の削減を目的として、有価物を含めた廃棄物の削減目標を設定し、取り組みを行っています。2017年度は、生産工程における歩留まり改善、不良率の低減活動を推進し、国内、海外ともに廃棄物排出量原単位は2015年度に比べ大幅な削減となりました。「3R (Reduce: 廃棄物の発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化) 活動」への取り組みをこれまで以上に強化し、排出物の削減につとめます。

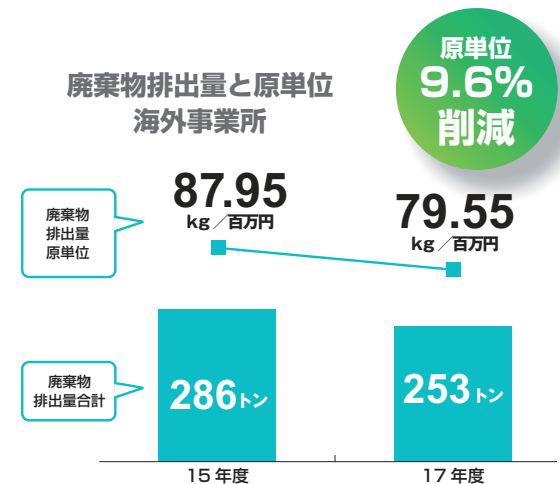
廃棄物排出量と原単位 国内事業所



原単位
8.1%
削減



廃棄物排出量と原単位 海外事業所



原単位
9.6%
削減

(注) 海外生産事業所においては、売上高を2012年の為替レートで円換算し、原単位を算出しています。

リサイクルへの取り組み

使用済製品の回収・リサイクルによりCO₂の削減に取り組んでいます

広域認定制度を活用した公共用製品のリサイクルへの取り組み

使用済みの樹脂製視線誘導標を188トン回収・再生 (2008～2017年度累計)

積水樹脂は、資源の有効利用・廃棄物削減のため、当社独自素材であるジスロンパイプを使用した樹脂製視線誘導標(デリニエーター・スノーポール)について広域認定制度の認定を取得しています。(認定日:2008年6月12日、認定番号:第145号)広域認定制度に基づくリサイクルシステムを構築し、使用后廃棄処理される樹脂製視線誘導標を、再度、原料として活用することで、建設廃材を他分野に流出させず、確実な環境負荷低減をはかっています。

CO₂排出量を107トン(※1)削減 (2008～2017年度累計)

50年杉
約7,650本分に相当
2008～2017年度
累計

使用済品の回収から再生原料化の過程で発生するCO₂は、バージン原料製造(資源採掘・採取から原料製造)の過程で発生するCO₂の約半分です(※2)。広域認定制度に基づくリサイクルを実践することで、CO₂排出量削減にも貢献しています。

- (※1) CO₂削減量は、再生原料(樹脂)重量(2008～2017年度実績:149t)に、(※2)のCO₂排出量の差(0.72kg)を乗じて算出しています。
- (※2) バージン原料1kgあたりのCO₂排出量:1.43kg(プラスチック廃棄物の処理・処分に関するLCA調査研究報告書(プラスチック処理促進協会)より) 再生原料1kgあたりのCO₂排出量:0.71kg(2008年度の回収・再生実績を基に各工程でのCO₂排出量を算出)
- (※3) 50年生のスギ人工林1本当たりの年間CO₂吸収量を約14kg(岐阜県の収獲予想表に基づく試算値)として試算しています。(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成のパンフレットより抜粋。)

回収・再生
188トン
2008～2017年度
累計

CO₂ 排出量
107トン削減
2008～2017年度
累計

(※1)

広域認定に基づくリサイクルの対象製品
デリニエーター スノーポール



広域認定制度とは?

製品が廃棄物となったものであって、当該廃棄物の処理を当該製品の製造、加工、販売等の事業を行う者が広域に行うことにより、当該廃棄物の減量その他その適正な処理が確保されることを目的として、廃棄物処理業に関する法制度の基本である地方公共団体毎の許可を不要とする特例制度です。

CO₂排出削減量 年間累積合計 50年杉換算(本) (※3)



TOPICS

使用済み天ぷら油をバイオ燃料へ

環境活動の新たな取り組みとして、従業員の家庭から使用済み天ぷら油を回収し、バイオ燃料としてリサイクルする活動を開始しました。「捨てればゴミ」の天ぷら油で環境活動に取り組んでいます。



・100Lの天ぷら油から、95Lのバイオディーゼル油が再生されます。



再生業者による回収

様々な環境活動主体と連携し、 「生物多様性の保全」と「持続可能な利用」に 積極的に取り組んでいます

積水樹脂グループ生物多様性保全の活動方針

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、事業活動による生物多様性への負荷を認識し回避・低減することで「生物多様性の保全」及び「持続可能な利用」につとめます。

指針 1

地球環境調和型製品の開発・普及を通じて、「生物多様性の保全」に貢献します。

指針 2

省エネルギー、省資源、廃棄物・有害化学物質使用削減などに継続して取り組み、環境負荷の低減につとめます。

指針 3

社会貢献活動として、事業所の立地する自然環境に応じた生態系の保全活動を推進します。

指針 4

生物多様性に関係する諸団体との連携を深めるとともに、情報発信を積極的に行い「生物多様性の保全」の普及につとめます。

環境コミュニケーション

「国連生物多様性の10年日本委員会」への協賛

生物多様性の保全と持続可能な利用に資する活動に協賛するべく、2010年より環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」に継続して支援を行っています。



同委員会のロゴマーク

「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画

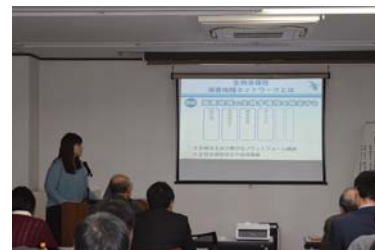
2013年9月設立された、里山保全の全国組織となる「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」に設立準備段階より参画しています。2017年3月の臨時総会においては、当社グループの環境保全活動事例を発表しました。これからも本ネットワークと連携し、「SATOYAMAイニシアティブ」の「普及啓発」「情報発信」「対話と実践」を進めていきます。



活動事例発表

「滋賀ビオトープ研究会」での活動事例発表

滋賀ビオトープ研究会は滋賀県が「琵琶湖総合開発」から「琵琶湖総合保全計画」にシフトする時代の1999年に発足し、行政関係者・教育関係者・専門家・一般住民からなる団体です。関係者が環境保全に結びつくビオトープ^(※)のあり方を追求していくことを目的に活動するとともに、研究発表会を開催しています。当社も『企業のビオトープにおける生物多様性保全』について活動事例を発表しました。今後も環境活動を通じた外部コミュニケーションにより、環境活動の向上を積極的に推進していきます。



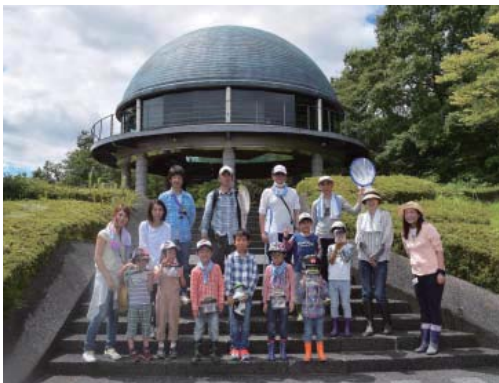
活動事例発表

(※)ビオトープとは生物群の生息空間を示す言葉です。

生物多様性の保全活動

従業員と従業員の家族向け「トンボ観察会」

自然豊かな滋賀積水樹脂(株)をぜひ知ってもらいたいという思いから、2015年度より従業員の家族向けに「夏休みトンボ観察会」を開催しています。さらに2016年度からは、家族だけではなく、場内で働く従業員を対象に昼休みをつかった観察会を開催しています。



夏休みトンボ観察会

滋賀積水樹脂(株)『いきものMAP』

鏡山のふもとにある滋賀積水樹脂(株)には、貧栄養湿地が残存し、日本一小さな「ハッチョウトンボ」をはじめ、多くの希少な生きものが生息しています。自然豊かな環境と生物多様性の保全活動を多くの方に伝えるために、環境保全エリアの『いきものMAP』を発行しました。



『いきものMAP』

物流センター(滋賀県)の環境保全エリア

貧栄養湿地が残存する物流センターの環境保全エリアにも多くの希少な生きものが生息しています。例年6月には、地域との環境コミュニケーションの一環として、蒲生図書館が主催するトンボ観察会を実施しており、ハッチョウトンボや湿地性植物等を観察しています。また、当エリアでは、2018年より5年間にわたり、地域団体と協力し環境省事業「モニタリング1000里地調査」が実施されます。



蒲生図書館 トンボ観察会

これまで、それぞれ生物多様性保全活動を実施していた滋賀県湖東地域の企業が連携し、様々な主体とともに湖東地域で広く生物多様性の保全を推進することを目的に「生物多様性 湖東地域ネットワーク」を立ち上げました。

生物多様性 湖東地域ネットワーク

(発起企業：旭化成(株)・旭化成住工(株)・積水樹脂(株)・(株)ダイフク)

トンボ79大作戦

湖東地域のトンボを救え!

作戦 1 湖東地域の全トンボ79種を探そう!
まずはトンボ採りをすることで、自然と深く知りましょう。
身近な場所でもトンボを通じて現状を知り、荷が大切なものを体験します。

作戦 2 湖東地域のトンボを守ろう!
湖東地域にこそ少ないトンボやその生息環境を守ることで、他の生きものたちや自然を広く守ることにつながります。

作戦 3 みんなに知らせよう!
自然の大切さや守ることの必要性をたくさんの人に知らせ、地域の自然のことを少しでも考えるきっかけをつくりたい。

体制
各社での連携、各自治体との連携、各企業での連携、各市民からのアプローチ、各教育機関との連携、各市民からのアプローチ、各企業での連携、各市民からのアプローチ。

連携によるメリット
1. 情報や技術、人材、設備資源などを共有してコスト削減
2. 専門家からのアドバイスや指導を受けやすい
3. 自然環境の保全に協力し、地域の発展や持続可能な社会づくりに貢献の取り組みが行われている地域、活動の場をのびやかにつくっていく。

なぜ、トンボ?

トンボは水辺で生まれ、成虫になると陸で生息するため、水辺やその周囲の環境の状態やつながりを知ることができる「環境指標」とされています。トンボを守ることは自然環境を守ることだと考え、この活動を開始しました。

“トンボ79”とは

トンボは日本全国で約200種、滋賀県ではその半分の100種が記録されています。“79”とは現在、湖東地域で記録されているトンボの種数になります。そのうち26種は絶滅危惧種となっています。

平成29年度「しが生物多様性大賞(協働部門)」を受賞

業種の異なる企業が連携し生物多様性保全活動に取り組んでいること、広域を移動するトンボをテーマにし、それぞれの事業所において保全活動を行っていることが評価されました。



「国連生物多様性の10年日本委員会」による連携事業に認定

トンボを象徴種に、企業の生物多様性保全活動をつなぎ、促進させている生物多様性保全上の高い効果を持ち、また広報することで、類似の活動の展開が期待されると共に、事業への参加者・協力者拡大などの効果が期待される点が評価されました。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

滋賀積水樹脂株式会社

滋賀製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字西川字下中筋1321
 主要生産品: 防護柵・交通安全資材・人工木材・シェルター
 設立年月: 1971年5月
 敷地面積: 61,569㎡



滋賀製造所

竜王鏡製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 主要生産品: メッシュフェンス・高欄・装飾建材・道路反射鏡
 設立年月: 1987年6月
 敷地面積: 129,415㎡



竜王鏡製造所

活動報告

環境貢献活動

滋賀積水樹脂(株)では、琵琶湖の清らかな水と生態系を守るための各種活動を行うとともに、工場周辺の環境美化活動を実施しています。2017年11月には、工場周辺の環境美化のために全従業員が参加する周辺道路の美化清掃活動を行いました。さらに2月には、琵琶湖の水質浄化と生物の生息・繁殖の場となる、ヨシの群落を守るための「琵琶湖ヨシ刈り活動」に周辺企業・団体とともに参加し、ヨシ刈りを行いました。今後も住みやすい環境を守るために周辺環境の美化活動を継続するとともに、異常気象の要因でもある地球温暖化を防止する活動に取り組んでいきます。



ヨシ刈り

最新版ISOへの移行

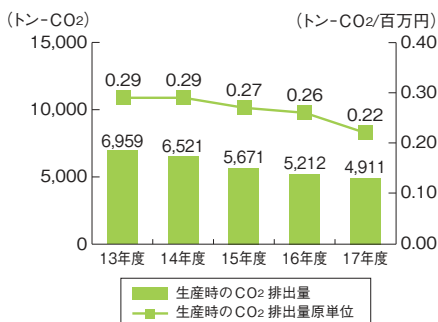
滋賀積水樹脂(株)では、ISO9001(品質)ならびにISO14001(環境)の認証を取得しています。2017年12月に最新版のISO規格への移行審査を受審し、移行を完了しました。今後、考慮すべき範囲が広がったこれらのマネジメントシステムを活用し、品質の維持向上ならびに環境負荷の低減につとめます。



ISO移行審査ミーティング

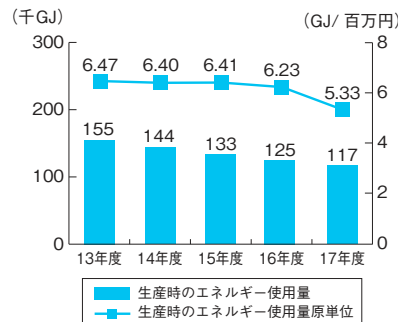
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

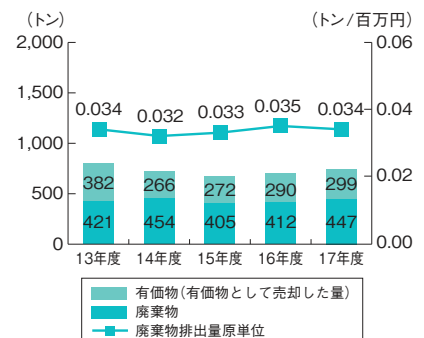


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



北陸積水樹脂株式会社

所在地:石川県能美市吉原釜屋町口ー1
 主要生産品目:梱包資機材・農業資材
 設立年月:1972年4月
 敷地面積:68,078㎡



石川工場

活動報告

企業の森づくり活動

北陸積水樹脂(株)では、地元住民の方々と共に日本海沿岸の松林保全(再生)活動に取り組んでいます。沿岸地の松林には、日本海の防風や砂の飛散、潮風による塩害、砂浜の浸食などを防ぐ役割があり、先人達の知恵を受継ぎ、松苗の植樹や下草刈りによる環境保全活動を進めています。2013年2月の植樹から5年が経過し、植樹した苗も1mを超える高さまで成長しました。環境を守る活動としてこれからも継続し、地元の方々と共に住みやすい町づくりへ貢献していきます。



日本海沿岸松林美観維持活動の参加者と植樹した松林

地域の学生による工場見学

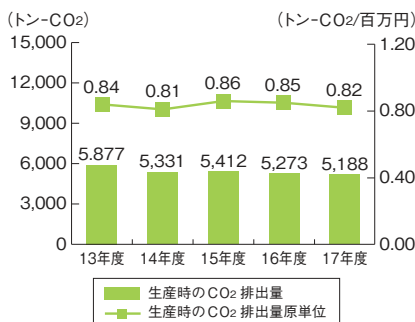
毎年、地域の学生による工場見学や職場体験を実施しており、当社の事業活動を紹介しています。



地域の学生による工場見学

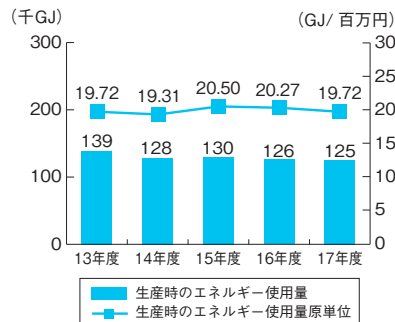
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

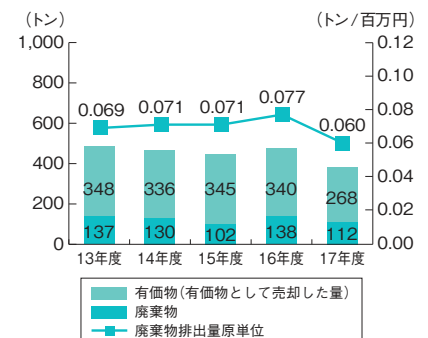


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



土浦つくば積水樹脂株式会社

土浦製造所

所在地:茨城県土浦市東中貫町2-2
 主要生産品目:路面標示材・めかくし塀・防音めかくし塀
 設立年月:1968年5月
 敷地面積:31,811㎡



土浦製造所

つくば製造所

所在地:茨城県牛久市桂町2200-3
 主要生産品目:メッシュフェンス・手摺関連製品
 設立年月:1990年5月
 敷地面積:56,353㎡



つくば製造所

活動報告

安全活動

全従業員が健康で安全に事業活動を推進するための取り組みのひとつとして、つくば製造所に安全道場を設置しました。危険体感機を用いた擬似体験やKYTパネルを用いた指差呼称訓練により、従業員一人ひとりが危険に対する感受性の向上を図ることとあわせて、安全道場で学んだことが自分たちの職場の改善に活かせるよう安全道場を活用しています。



指差呼称訓練

環境貢献活動

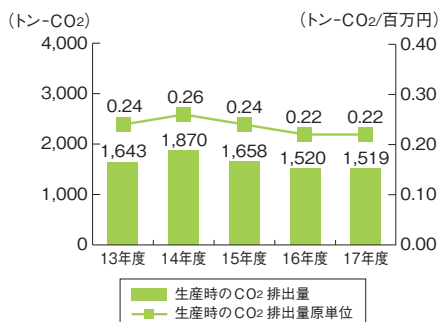
2017年11月に、新たな社会貢献活動として、地元土浦市のNPO法人「穴塚の自然と歴史の会」のご協力のもと、里山保全活動を実施しました。活動エリアである土浦市穴塚の里山は、東京から筑波山の麓までで最も広い里山であり、多様な生き物を育む里山生態系を有しています。この貴重な里山を守るために、今回は竹の伐採を行いました。成長が早い竹が密集して生えると、樹木の成長を阻み里山が荒廃する一因となるためです。本活動を定着させることで、地元の方々と共にこの貴重な里山環境の保全につとめていきます。



「穴塚の自然と歴史の会」の里山保全活動参加者

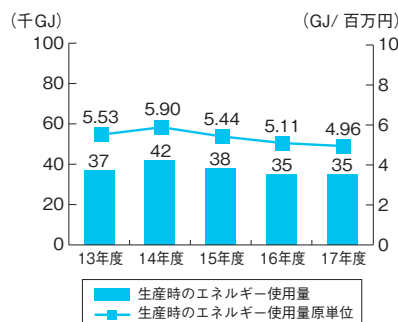
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

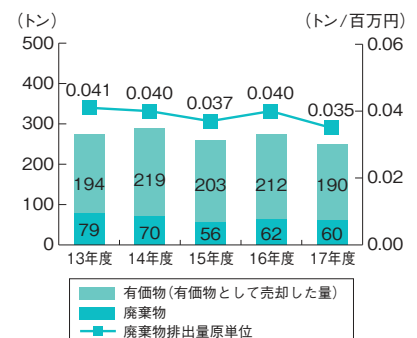


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



積水樹脂プラメタル株式会社

本社工場

所在地:長野県上伊那郡辰野町大字小野795-1
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材
 設立年月:1966年6月
 敷地面積:20,470㎡



本社工場

関東工場

所在地:茨城県牛久市桂町2220-3
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材



関東工場

活動報告

森林保全活動

2011年に当社が長野県辰野町と締結した森林(もり)の里親協定の一環として、毎年、森林整備体験活動を継続しており、2017年度は4月に辰野町のしだれ栗森林公園で実施しました。第7回目となる今回は総勢58名が参加し、森林の除伐作業を行いました。アカマツ林の下草を除伐することで見通しのよい森林となりました。今後も環境保全への取り組みを拡大し、豊かな森林を後世につなげていくよう活動を継続していきます。



第7回森林整備体験活動参加者

作業環境の改善

夏場の場内気温が高温となる熱源を有する工場に、作業者の作業環境改善を目的とした2重屋根と吸排気ファンを設置しました。これにより場内気温を約10℃下げることができました。さらに作業者にとって安全で快適な職場になるよう取り組んでいきます。



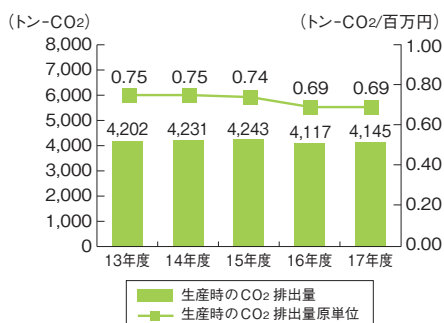
二重屋根と吸排気ファン



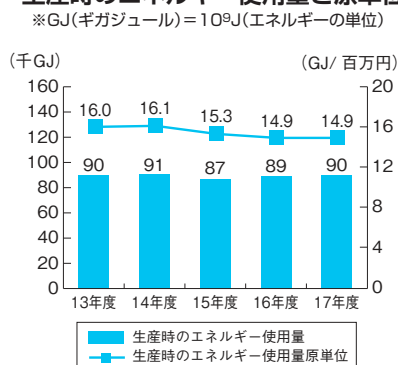
第7回森林整備体験活動

主要な環境パフォーマンスの推移

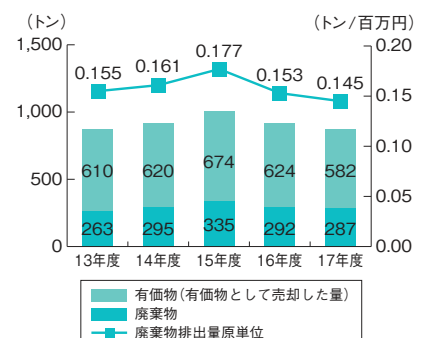
生産時のCO₂排出量と原単位



生産時のエネルギー使用量と原単位



廃棄物排出量と原単位



サンエイポリマー株式会社

所在地:山口県岩国市周東町祖生6370
 主要生産品目: 梱包用結束バンド、包装用フィルム
 設立年月: 1970年5月
 敷地面積: 23,453㎡



環境への取り組み

リユースカンによるゴミ減量への取り組み

紙管の代わりにリユース可能なプラスチックコアを採用することでゴミを減量する環境にやさしい紙管レス梱包用バンドです。ご使用中の梱包機にそのまま装着可能です。

リユースカン



リユースカンの回収方法



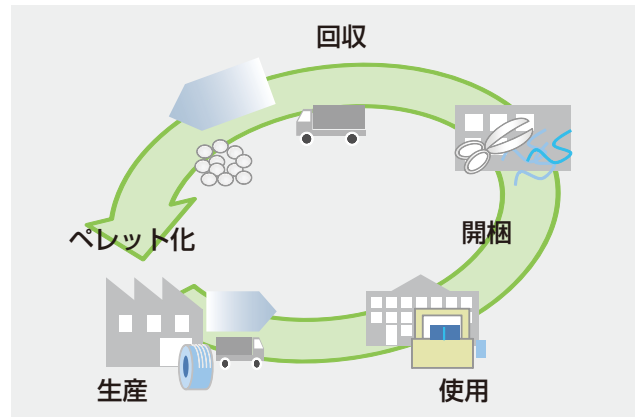
リユースカンは専用回収箱で回収、再利用できる仕様、強度としております。嵌合部を1カ所外すことで輸送効率を向上させ、再利用時の組立も容易としています。又、1枚が破損しても、差し替えることで繰り返し使用できます。

リサイクルへの取り組み

破碎機を導入し、回収バンドや生産過程で生じる工場内ロスなどを破碎・再生し、再生原料として活用することで、省資源・廃棄物削減に向けてリサイクルの取り組みを推進しています。



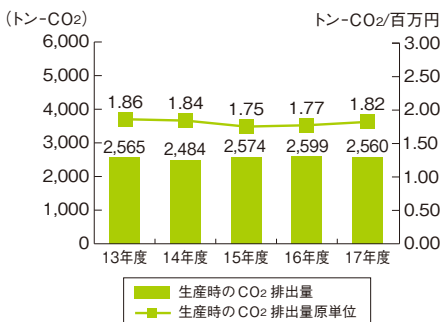
再生原料を活用した梱包用バンド



梱包資材 リサイクルシステムのフロー

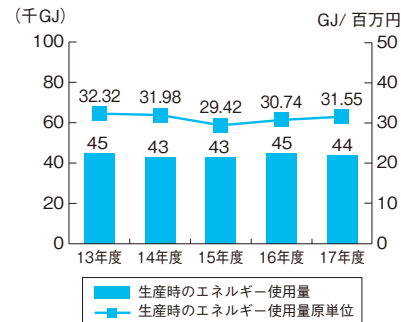
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

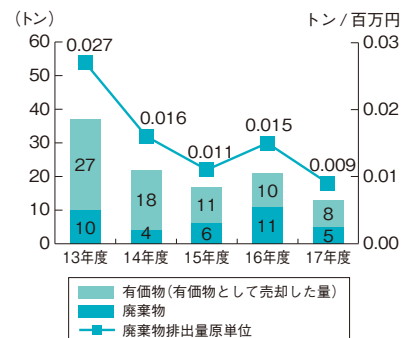


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



【CO₂排出量原単位、エネルギー使用量原単位増加の要因】販売品種構成の変動などの影響で増加しました。

日本ライナー株式会社

本社所在地:東京都江東区新大橋1丁目8番11号
 主要営業品目:路面標示、舗装材、構造物メンテ、安全資材
 設立年月:1965年8月



環境への取り組み

環境製品

環境にやさしい製品の開発、販売により環境負荷の低減と減災・防災に取り組んでいます。

路面標示材(水性)

ロードライン マーキュリー



VOC(揮発性有機化合物)を大幅に低減させた、地球環境にやさしい塗料です。

遮熱性舗装工事



近赤外線を効率的に反射することで、路面の蓄熱を抑え、路面温度の上昇を抑制します。

コンクリートはく落防止工事



コンクリート構造物の剥落を抑制し長寿命化が図れます。環境配慮型塗料を使用した工期短縮型工法のため従来工法に比べ、VOC(揮発性有機化合物)を約80%削減できます。

環境・美化運動の実施

宮城県が管理する道路や河川等におけるボランティア活動を支援する「スマイルサポーター」の認定を受け、2016年度より仙台松島線の認定区間において年4回の清掃活動を行っています。今後もこのような活動を継続し、地域への環境貢献に取り組んでいきます。



スマイルサポーター認定書と活動

TOPICS

「ハイウェイテクノフェア2017」への出展

2017年11月に東京国際展示場で開催されました「ハイウェイテクノフェア2017」へ出展しました。ハイウェイテクノフェアは、2017年で第14回目となり、『高速道路の建設管理技術』に焦点をあてた展示会として、産業界のみならず社会にも広く認められたイベントとして発展しております。積水樹脂グループにて交通安全用品をはじめ多数出展し、多くの方にご来場いただきました。



ハイウェイテクノフェア2017

Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)

所在地: Ringweg 50, Industriepark Roerstreek
Noord 7866 6045 JL Roermond The
Netherlands
主要生産品目: 梱包用結束バンドの製造
設立年月: 1974年1月 敷地面積: 30,000㎡



活動報告

省エネ・廃棄物削減への取り組み

押出成形機などの生産設備を、順次インバーター式に更新していくとともに、主力製品である『印刷バンド』の多本取り化を進め、インク、危険物(主にシンナー)等の使用量を従来から約30%削減することができました。今後も他生産ラインへの水平展開を進めていきます。

安全衛生活動

生産現場・人員への安全な労働環境の提供に向け、オランダ社会福祉環境省指導のもと、全生産設備への安全・保護対策を実施しました。今後も全従業員への安全基準の順守を継続して周知徹底するとともに、労働環境の変化に応じて継続的改善を進めていきます。

Summit Strapping Corporation (フィリピン)

所在地: Phase II Lot 11 Carmelray Industrial Park Canlubang,
Calamba, 4027 Laguna, Philippines
主要生産品目: 梱包用結束バンドの製造・販売
設立年月: 1997年3月 敷地面積: 31,600㎡



活動報告

カーメルレイ工業団地環境保全活動への参加

カーメルレイ工業団地が主催する環境保全活動の一環で、自然環境保護をスローガンとするマラソンイベントに参加しました。川を大切にすることをスローガンとするマラソンイベントに参加し、環境保全意識を共有し、保全活動を行っています。



マラソンイベント参加者



安全衛生活動

台風や地震が多いフィリピンでは年2回、消防・避難訓練とともに災害救助や応急処置のセミナー・トレーニングを実施しています。継続することにより、安全衛生活動の強化に取り組んでいます。



避難訓練や緊急時対策のセミナー・トレーニング

Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. (タイ)

所在地: 700/743 Moo 1 Amata Nakom Industrial Estate, Tambol
 Panthong Amphur Panthong, Chonburi 20160, Thailand
 主要生産品目: 自動車部品関連製品の製造・販売及び射出成形金型の製造・加工・販売
 設立年月: 2004年1月 敷地面積: 32,000㎡



参加者と植林活動

活動報告

マングローブ植林活動

マングローブとは、熱帯・亜熱帯地域の河口汽水域の塩性湿地に成立する森林のことで、世界でも東南アジアにおける分布が最大です。2011年度に開始された積水化学工業(株)主催のマングローブ植林活動も2017年度で第7回目を迎え、今回はAMATA工業団地近くの湿地で実施されました。総勢134名により、一人20本のマングローブを植林しました。マングローブは成長するのに非常に時間のかかる植物であり、人の背丈くらいまで成長するのに20~30年かかります。継続することが重要であり、引き続き地球環境保全につとめていきます。

DATA

海外事業所の環境負荷データ

	Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)					Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)				
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
CO ₂ 排出量(トン)	3,192	3,226	3,276	3,145	3,024	2,742	2,630	2,799	2,640	2,596
廃棄物排出量(トン)	40	35	38	43	50 [*]	190	256	222	206	189

※2017年度廃棄物排出量増加の要因: 生産量増加に伴う品種替えロスなどの影響により増加しました。

	Summit Strapping Corporation (フィリピン)				
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
CO ₂ 排出量(トン)	2,140	1,737	1,234	1,313	1,320 [*]
廃棄物排出量(トン)	47	40	27	15	14

※2017年度CO₂排出量増加の要因: 生産量増加などの影響により増加しました。

社会性報告

これからも社会から信頼され続ける企業であるために

コミュニケーション活動 34ページ

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをCSR活動に活かしています

- ・工場見学会の実施
- ・決算説明会(IR)の実施
- ・アニュアルレポートの発行

社会貢献活動 35ページ

様々な社会貢献活動を通して、社会との絆を深めていきます

- ・地域社会への貢献
(環境・美化運動、地域の行事への参加・協賛)
- ・交通遺児育英会への寄付を継続
- ・BOOK MAGIC ・ TABLE FOR TWO

従業員と社内風土 37ページ

従業員と会社がともに成長できる企業風土づくりにとめています

- ・人権の尊重
- ・「働き方改革」への取り組み
- ・労働時間の適正な管理
- ・障がい者雇用
- ・定年後の再雇用制度
- ・従業員の持続的な成長を促す育成制度
- ・従業員一人ひとりがやりがいと意欲を持って仕事に取り組む企業風土
- ・女性の活躍推進への取り組み

労働安全衛生活動 39ページ

従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組んでいます

- ・安全衛生活動
- ・ゼロ災リーダー研修
- ・社内安全監査

品質管理活動 40ページ

品質管理委員会を設置し、製品の品質管理に取り組んでいます

- ・品質マネジメントシステム体制
- ・製品品質の評価・改善
- ・品質情報の共有化 ・ PL事故予防 など

当社グループの社会性に関する取り組みのうち、国連が提唱する「SDGs^(※)」に貢献できると考える項目を以下に示しています。
(※)SDGs：持続可能な開発目標。概要は2ページに記載しています。

当社グループの取り組み

貢献可能なSDGsの目標

社会貢献活動

■ グループ各社で展開する環境・美化運動



■ 地域の小学生に「反射シール」を寄贈



■ 「交通遺児育英会」への寄付
■ 「BOOK MAGIC」への参加



■ 「TABLE FOR TWO」への参加



従業員と社内風土



労働安全衛生活動





コミュニケーション活動

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをCSR活動に活かしています

地域の皆様とのコミュニケーション

工場見学会などの実施

地域の皆様に工場の活動や環境への取り組みなどを理解していただくために、工場見学会などを実施しています。また、2017年度は、関東支店において中学生の職場訪問学習の受け入れを行いました。



地域の学生による工場見学（北陸積水樹脂）



中学生による職場訪問学習（関東支店）

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

決算説明会(IR)の実施

証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの機関投資家の皆様に対する決算説明会を年2回開催しています。代表取締役CEOより、決算内容や中期経営計画の進捗状況などについての説明を行い、機関投資家の皆様からは、当社の今後の事業展開について、たくさんのご質問をいただきました。

ステークホルダーの皆様への情報発信

アニュアルレポートの発行

海外のステークホルダーの皆様への財務情報や主要なCSR活動の情報を提供するために、アニュアルレポートを毎年発行しています。



TOPICS

森林保全活動から生まれた獣害対策製品

積水樹脂グループは、滋賀県、石川県、長野県で地域の方々と協力して森林保全活動を毎年実施していますが、この活動を通じて、シカによる成木の皮はぎ被害や、苗木の食害被害の深刻さを目のあたりにし、これをきっかけに「成木保護ネット」や「幼齢木保護チューブ」を開発しました。

■成木保護ネット



樹木に巻き付けることでシカなどの皮はぎ被害を軽減できるネット。伸縮性があり樹木の生育は妨げません。

■幼齢木保護チューブ



蛇腹状のチューブを引き上げてクリップで支柱と固定することで、苗木の食害を軽減できる製品です。



幼齢木保護チューブ 試験設置の様子

様々な社会貢献活動を通して、 社会との絆を深めています

地域社会への貢献

グループ各社で展開する環境・美化運動

かねてより、積水樹脂グループでは、事業所近辺の環境・美化活動を定期的に行っています。この活動により、地域社会の美化に貢献することとあわせて、従業員が地域社会とのかかわりの大切さを意識する良い機会となっています。

■ 2017年度 環境美化運動の実績

- ・ 東北支店(定禅寺通り清掃活動)
- ・ 滋賀積水樹脂(株)(ヨシ刈りボランティア活動、地域清掃活動)
- ・ 土浦つくば積水樹脂(株)(NPO法人宍塚の自然と歴史の会 里山保全活動)
- ・ 北陸積水樹脂(株)(道路里親制度活動、企業の森づくり推進事業)
- ・ 広島積水樹脂(株)(工業団地内クリーン活動)
- ・ 積水樹脂プラメタル(株)(森林の里親協定、河川清掃活動)
- ・ 日本ライナー(株)(定禅寺通り清掃活動、スマイルサポーター活動)
- ・ 東北積水樹脂(株)(道路愛護団体活動)
- ・ エスジェイシー寿(株)(事業所周辺清掃活動)
- ・ 積水樹脂産商(株)(事業所周辺清掃活動)
- ・ ロードエンタープライズ(株)(地域清掃活動)



定禅寺通り清掃活動
(東北支店、日本ライナー(株))



事業所周辺清掃活動
(積水樹脂産商(株))

地域行事への参加・協賛

各事業所が立地する地域で行われている行事に参加・協賛することで、地域社会とのコミュニケーションをはかっています。

■ 主な地域社会への協賛

- ・ 牛久市 かつぱ祭り、シティマラソン(茨城県)
- ・ 辰野町 ほたる祭り、さくら祭り(長野県)
- ・ 竜王町 やまびこまつり、ふるさと竜王夏まつり(滋賀県)
- ・ 東城町 遊夏祭、ふれあい東城まつり(広島県)
- ・ 周東町 夏季ふるさとまつり、祖生ふるさとまつり(山口県)
- ・ 山田のかかし村まつり(宮崎県)

地域の小学生に「反射シール」を寄贈

東北積水樹脂(株)は、交通安全製品に携わる企業として、通学路での交通事故の防止を目的に、2013年から継続して同社が立地する宮城県柴田郡柴田町内の小学生を対象に「反射シール」を寄贈しています。この「反射シール」は、同社が道路標識などの交通安全製品を製造する際に発生する端材を加工し、作成したものです。



かばんや自転車などに貼ることで、夜間の車のライトに反射し、交通事故防止に寄与します。

事業と関連する社会貢献活動

「交通遺児育英会」への寄付を継続

交通安全に携わる企業として、交通事故により保護者を亡くされた子供達への就学を支援する「公益財団法人交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを2011年より継続して行っています。



継続的な取り組みをご評価頂いています

■ 褒状及び感謝状受賞歴

- ・ 2013年 褒状、感謝状受賞
- ・ 2014年 褒状、感謝状受賞
- ・ 2015年 感謝状受賞
- ・ 2016年 感謝状受賞
- ・ 2017年 感謝状受賞

気軽に取り組むことができる社会貢献

「BOOK MAGIC」への参加

大阪本社では2011年8月から、「BOOK MAGIC」を定期的に行っています。不要な本やCDを売却し、その売上をNPO法人JENに寄付することで、開発途上国の教育サポートプログラムに役立ててもらい取り組みです。



「TABLE FOR TWO」への参加

大阪本社及び近畿・北陸支店では、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加しています。対象となる食事や飲料を購入することにより、購入金額の一部をアフリカの子供たちの給食として寄付することができます。



人権を尊重した企業経営

人権の尊重

企業の根幹をなすのは「ひと」であり、積水樹脂グループは企業活動において、社内外を問わずステークホルダーの基本的な人権を尊重します。多様な人材の多様な価値観を認め合い、出生、国籍、人種、信条、性別、障がい、性的少数者(LGBT)などを理由とした差別や偏見のない社会の実現に向けて、人権課題に関する研修を実施するなど啓発活動に取り組んでいます。また、各事業所においては、「労務委員会」を定期的に関催し、従業員の意見・要望が活かされるようつとめています。

快適な職場環境づくり

「働き方改革」への取り組み

ワーク・ライフ・バランスの観点から仕事と家庭との両立支援を進めることにより、従業員は持てる能力を最大限に発揮し、仕事の成果と会社全体の活力を生み出します。当社グループでは、「働き方改革」への取り組みとして、2017年度には、より一層柔軟な働き方が実現できる半日単位の有給休暇制度や育児短時間勤務期間の拡充など、育児・介護と仕事の両立支援に繋がる制度を新たに導入しました。

今後も、積極的に女性や高齢者をはじめとする多様な人材が健康でいきいきと働ける組織風土ならびに職場環境づくりを推進していきます。

障がい者雇用

障がいのある方への雇用機会拡大と職場定着を目指し、障がい者と職場が相互に協力して能力が発揮できる環境を、今後も継続して整えていきます。

労働時間の適正な管理

政府の方針として「働き方改革」が推進されるなか、当社グループとしても業務効率化・生産性向上への取り組みを推進しています。2017年度には、適正に従業員の労働時間を管理・把握できる勤怠管理システムをグループ全体に導入しました。また、従業員の心身の健康を保持・増進するために、週2日の定時退社や早朝勤務・20時以降の残業禁止、パソコンの使用時間制限を設けるなど、継続して時間外労働削減に向けた取り組みを実施しています。

定年後の再雇用制度

定年退職者を対象に65歳まで再雇用する制度を設けています。働く意欲があれば、培ってきた知識・技術・能力を十分に活かすことができ、再雇用者、会社の双方にメリットがあります。また、従業員の声を尊重し、勤務日数や時間を選択できる制度も設けています。

TOPICS 「社内親睦会」活動報告

当社グループには従業員同士が親睦を深める親睦団体があります。職場をより一層活性化させることを目的として、事業所ごとにさまざまな親睦イベントを開催しています。所属部門の垣根を越えて交流することができ、風通しの良い職場環境の形成に一役買っています。



各事業所の慰安旅行の様子



人材育成

従業員の持続的な成長を促す育成制度

営業研修・技術者研修の開催

「事業活動に資する人材育成を目指した教育制度を実施し、従業員のキャリア形成を支援する」という方針のもと、製品知識の向上並びに計画的な技術伝承を目的とした「営業研修」・「技術者研修」を随時開催しています。

研修では若手従業員だけでなくベテラン従業員など多様な人材が合同で参加しており、情報を共有化し、互いに刺激合うことで、知識・能力・経験を備えた人材の育成を進めています。

個人目標を明確化した「個」の強化への取り組み

従業員の成長が会社の成長につながるという考えのもと、半期に1度、個人毎に挑戦的な目標を設定し、その達成に向けた取り組みを評価することで「個」の強化をはかっています。目標が達成できるよう、上長との密なコミュニケーションや、PDCA(Plan-Do-Check-Action)実践の徹底を進めています。

従業員・組織の活性化

従業員一人ひとりがやりがいと意欲を持って仕事に取り組む企業風土

自己申告制度

従業員がワークライフバランスもふまえた今後の自身の成長に向けたキャリアプランを考える機会と、時代の趨勢をとらえた「働きがい」につながる人事施策に従業員の意見を反映させていくことを目的とした自己申告を実施しています。2017年度には対象をグループ会社まで拡大し、グループ全体の活性化に向けた制度として取り組んでいます。

社内表彰制度

毎年11月の創立記念日に、特に顕著な業績や実績をあげた従業員に対し、その功労と功績を称え表彰を行なっています。創立63周年業績表彰では、15件、22名、1社が表彰されました。



創立記念業績表彰式



研修先(左: Sekisui Jushi (Thailand) Co., Ltd.、
右: Sekisui Jushi Europe Holdings B.V.)

女性の活躍推進への取り組み

企業の持続的発展のためには、女性がいきいきと安心して活躍できる組織風土と職場環境づくりが重要と考え、女性総合職採用の推進や育児と仕事の両立を支援できる制度の拡大を進めています。



女性総合職採用拡大への取り組み

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画で、総合職の新卒採用者に占める女性比率を15%以上としています。実績として、2017年度20%、2018年度18%で推移しており、今後も社内でも活躍する女性総合職の紹介や学校と連携し学生に働きかけを行うなど積極的な取り組みを展開していきます。

総合職・一般職コース転換制度

女性の活躍を推進する施策のひとつとして、2013年度よりコース転換制度を導入しています。主に定型業務やサポート業務を行う一般職(地域限定)で入社したとしても、能力と向上心があれば、企画、営業、研究開発等を行う総合職(全国転勤あり)への転換に応募できる制度です。

積水樹脂グループ安全衛生方針

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組みます。

指針 1

全従業員が
「安全最優先」のもと
行動します。

指針 2

労働安全衛生に関連する
法令及び各事業所で規程される
ルールを遵守します。

指針 3

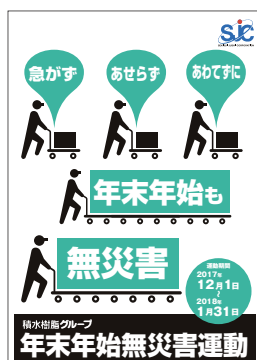
安全衛生活動の
継続的改善につとめます。

労働災害の発生状況 2017年度は、当社グループ全体で休業災害が2件、不働災害が3件発生しました。
災害が発生した事業所では、原因を分析・究明するとともに直ちに再発防止対策を講じています。

主な取り組み

全社を挙げての安全衛生活動

当社グループ全社を挙げて労働災害の撲滅に取り組んでいます。2013年度より毎年、夏期及び年末年始無災害運動を展開し全従業員への安全意識の向上を図るとともに、場内パトロール、熱中症予防、防火点検等を通じて安全活動の強化を行っています。



積水樹脂グループ共通
年末年始無災害運動ポスター

また、定期的に安全情報を発信・共有し、災害の未然防止に繋がっています。2017年度は「熱中症予防」や「腰痛予防」「転倒災害防止」などについての安全情報・安全チェックシートを発信し、各事業所での安全活動に役立てています。

ゼロ災リーダー研修

従業員安全教育の一つとして、毎年「ゼロ災インストラクター」を招いて「ゼロ災リーダー研修」を開催し、安全リーダーを養成しています。

2017年度は5月と12月に開催し、約40名の安全リーダーを養成し、現場での安全活動に活かしています。



ゼロ災リーダー研修

社内安全監査

毎年、生産事業所を対象に社内安全監査を実施しています。安全監査では、労働安全衛生関連法令の遵守状況確認や安全パトロールによる不安全部位・不安全行動の抽出、改善を行い、安全安心な職場づくりに繋がっています。

TOPICS 無災害記録証「銅賞(第3種)」受賞

東北積水樹脂(株)は、1993年以来無災害を継続しています。この無災害の継続と労働安全衛生活動への積極的な取り組みが認められ、2018年3月1日に中央労働災害防止協会より、無災害記録証「銅賞(第3種)」を受賞しました。



お客様に満足していただける製品作りのため、品質管理委員会を設置し、製品の品質向上に取り組んでいます

推進体制

品質管理委員会を設置しています

各生産事業所ごとに品質管理委員会を設置しています。この委員会では、品質改善やお客様に満足していただける製品作りのため、年度ごとに品質目標、重点実施項目、推進計画を定め、実施状況の管理・フォローを行っています。

主な取り組み

製品品質の評価・改善

大規模試験走路「道夢道」には、「走踏試験機」や「落錘試験機」、「音響測定試験棟」などの大型試験設備があります。これらの試験機を活用し、実物での製品安全性や耐久性の検証を行い、製品品質の評価や新製品開発に繋がっています。またR&Dプラザでは、各種分析装置、耐久性試験機等を用い、素材レベルの性能を評価しています。2017年度は、新型分光光度計を導入し、紫外、可視、近赤外領域に及び日射反射率を測定し、遮熱対策製品の性能評価等を進めています。

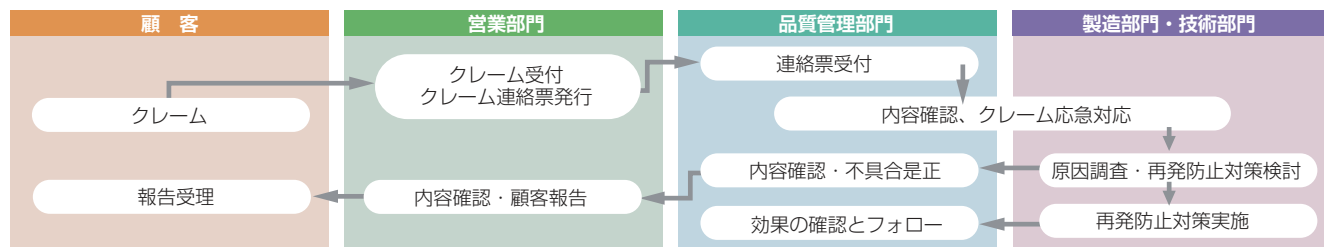


新型分光光度計による日射反射率測定

クレームへの対応と再発防止

お客様からのクレームは、各営業部門にて受け付けた後、品質管理部門、製造部門、技術部門が協力して再発防止のための調査・実施を行っています。再発防止対策の実施後は、効果の確認を行い対策の妥当性を検証しています。

■クレーム対応フロー



品質マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編：ISOの認証取得状況は50ページ

品質情報の共有化

クレーム発生状況やPL情報については、社内イントラネットを活用し、品質管理情報として共有化しています。また、公的な認証等を取得している製品の情報についても開示しています。

PL事故予防

PL法は、製造物の欠陥によって、人の生命、身体、財産に被害が生じた場合に、製造業者に損害賠償責任を課するものです。PL事故予防のために、以下の取り組みを行っています。

(1) 製品開発段階での危険性予測

製品に潜在的に存在する危険性を製品開発の各段階でチェックしています。

(2) 取扱説明書・カタログのPLチェック

「取扱説明書作成ガイドライン」を整備し適切な取扱説明書の作成に役立てるとともに、使用者へ正しい安全情報を提供することにつとめています。

ガバナンス報告

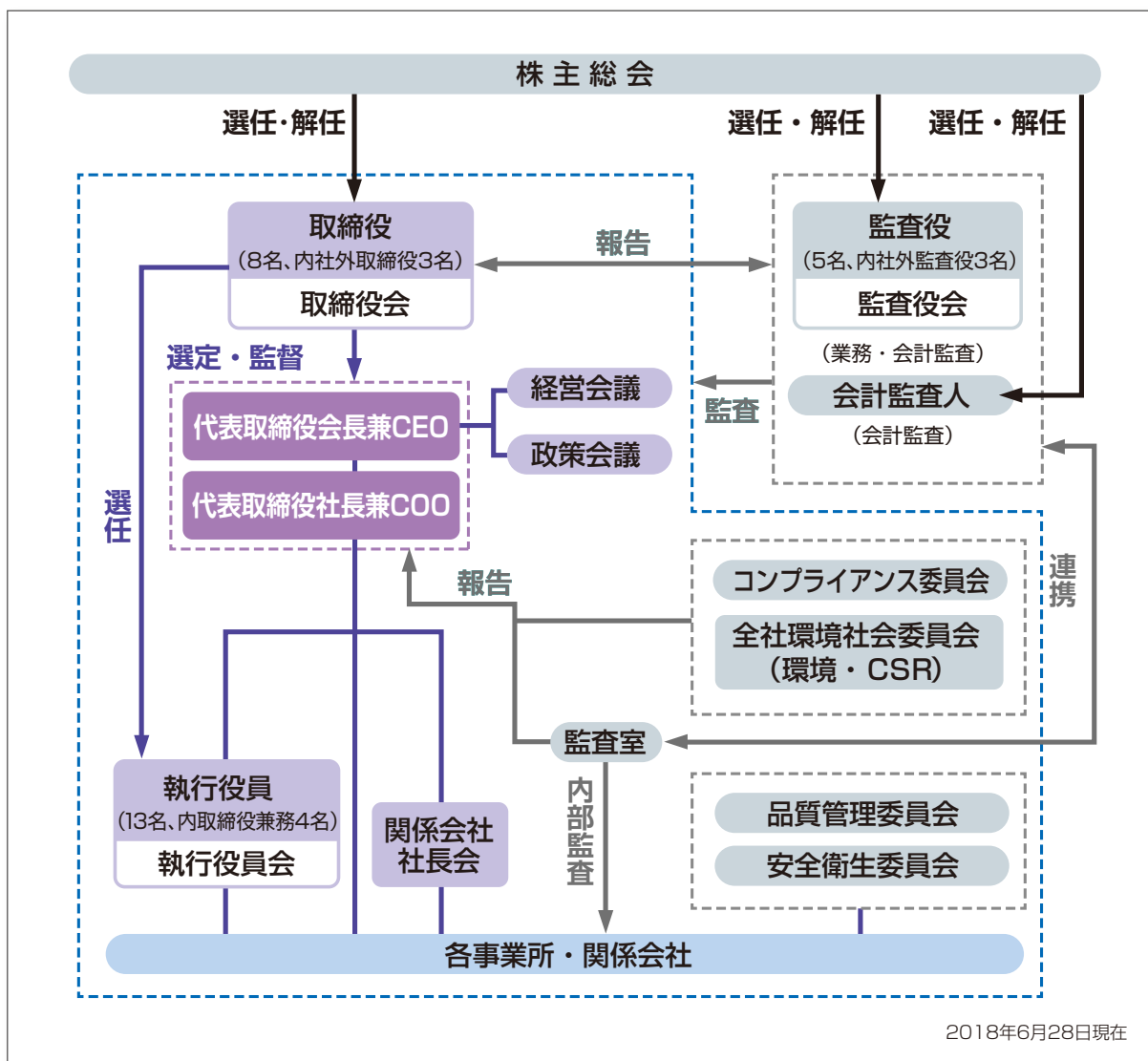
コーポレート
ガバナンス

コーポレートガバナンス・コードの各原則を踏まえて
体制の充実につとめています

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

激変する経営環境に対応するためには効率的な経営が必要であり、そのための経営の透明性向上、意思決定の迅速化を進めるにはコーポレートガバナンスの確立が重要であると認識し、コーポレートガバナンス・コードのそれぞれの原則を踏まえ、体制のさらなる充実につとめてまいります。

コーポレートガバナンス体制図



当社ホームページ「コーポレートガバナンス」のページにて基本方針など関連事項を公開しています。
http://www.sekisuijushi.co.jp/shareholder_investor/governance/

コーポレートガバナンス体制

取締役会・取締役

取締役会を少人数で構成し、原則毎月1回これを開催することにより経営に関する迅速な意思決定をはかっています。経営責任の明確化をはかるため、取締役の任期は1年間としているほか、社外取締役を3名選任し、取締役会における監督機能の強化と意思決定の強化をはかっています。

経営会議

原則として常勤取締役及び議長から指名された執行役員にて構成され、常勤監査役が出席のもと毎月1回以上開催しています。経営上の重要事項及び会社の業務執行方針の審議・意思決定、並びに取締役会付議事項の事前審議を行っています。

執行役員会

原則として執行役員にて構成され年6回開催しています。業務執行上の重要事項の審議、取締役会並びに経営会議決定事項の周知及び執行役員の執行状況の報告、その他役員相互間の情報の共有と討議を行っています。

監査室

内部監査部門である監査室は、当社及び当社子会社への会計監査及び内部統制システムを中心とした業務監査を行い、その結果を代表取締役及び監査役へ報告しています。

監査役会・監査役

監査役会は5名の監査役で構成しており、うち3名は社外監査役です。監査役会は定期的で開催され、監査結果等について報告・意見交換がなされています。

政策会議

原則として常勤取締役及び議長から指名された執行役員にて構成され、原則毎月1回開催しています。経営上の重要な政策・戦略事項の審議を行っています。

関係会社社長会

当社常勤取締役及び常勤監査役と主要グループ会社の社長にて構成され年2回開催しています。グループ会社の業務執行につき審議し、経営判断の適正化をはかっています。

会計監査人

会計監査人は大手前監査法人です。監査役へ定期的な会計監査の説明、情報交換を行うほか、監査役立会いのもと事業所監査を実施するなど、監査役との連携・協調をはかり、監査の充実につとめています。

TOPICS 独立役員について

当社では、独立かつ客観的な経営の監督・監査の実効性を確保するために、「独立役員」(一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役又は社外監査役)を複数名選任し、東京証券取引所に届出しています。2016年6月には、独立社外取締役および独立社外監査役をそれぞれ1名増員し、現在では以下の体制となっています。(2018年6月28日現在)

	総数	うち、社外役員	比率	うち、独立役員	比率
取締役	8名	3名	37.5%	3名	37.5%
監査役	5名	3名	60.0%	2名	40.0%

なお、当社の独立性判断基準については、当社ホームページに掲載しています。
http://www.sekisuijushi.co.jp/shareholder_investor/governance/pdf/criteria_2016.pdf

コンプライアンスの基本的な考え方

積水樹脂グループでは、企業人としていかに行動すべきかを示した「積水樹脂グループ企業行動指針」を制定し、そこに示すコンプライアンスの考え方を役員・従業員全員で共有しています。コンプライアンスを「法令や社内ルールを守ることはもちろん、企業倫理に基づき誠実に行動すること」と広くとらえて、一人ひとりが日々の業務の中で実践することにつとめています。

積水樹脂グループ企業行動指針

当社グループは、創立以来「プラスチックと金属・繊維その他の物質を結びつけた価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する」という経営理念に基き、事業展開してまいりました。

当該「経営理念」のもと、企業の社会的責任を自覚し、企業人としていかに行動すべきかを次の通り企業行動指針として制定し、グループ役職員全員のコンプライアンスに対する意識向上をはかるとともに、より透明度の高い事業活動を推進してまいります。

<人権の尊重>

1. 国内・外を問わず人権を尊重し、平等・公平に行動するとともに、従業員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい職場環境を確保します。

<社会的責任>

2. 顧客のニーズにかなう安全な製品・サービスを提供するとともに、正しい製品情報を適確に提供し、顧客の信頼と満足を獲得します。
3. 公正かつ適正な取引関係の上取引先との信頼関係を築き、相互の発展を図るとともに社会的信頼を高めます。
4. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

<法令等の遵守>

5. あらゆる企業活動において法令・社内ルール等を遵守し、公正な企業活動を遂行します。
6. 個人情報や会社の機密情報は厳正に管理します。
7. 政治・行政とは健全かつ透明な関係を維持します。

<反社会的勢力への対応>

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係を持ちません。

<社会・環境との調和>

9. 国内・外を問わず、その文化や習慣を尊重し、地域社会との共生を目指します。
10. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、積極的に推進します。

コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会

当社グループのコンプライアンスは、コンプライアンス委員会が統括・推進しています。委員長は社長執行役員であり、年2回定期的に開催し、当社グループにおけるコンプライアンスに関する課題の把握と対策の検討を行っています。

コンプライアンス責任者

各事業所および関係会社に「コンプライアンス責任者」を置き、体制の維持・強化をはかっています。

コンプライアンス定期報告

コンプライアンスに関する問題の未然防止・早期発見をはかるとともに、全社的な施策の検討・実施を行うため、「コンプライアンス責任者」から「コンプライアンス委員会」に対して、定期的に活動状況や課題の報告を行う体制を構築しています。

啓発活動

コンプライアンス解説ハンドブックを使った啓発活動

企業行動指針を解説した、「コンプライアンス解説ハンドブック」を当社グループの全役員・従業員に配布し、意識の啓発につとめています。

また、同ハンドブックを補完する資料として、「ポイント解説」を社内イントラネットに定期的に掲載し、各職場での啓発活動に役立てています。

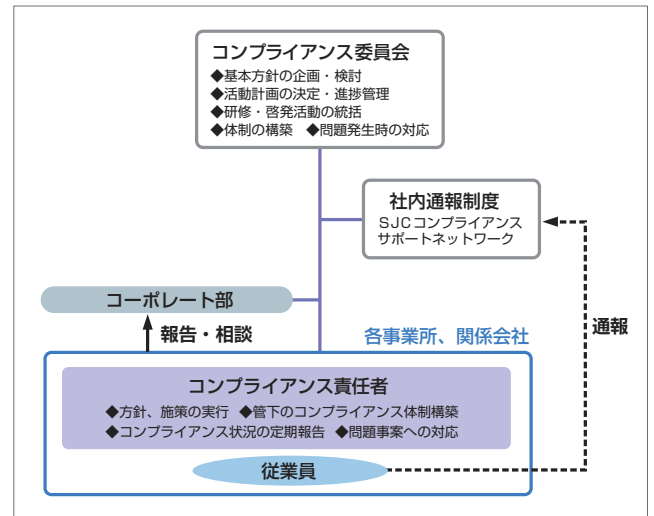
アンケートを施策に反映

2017年10月に、従業員を対象としてコンプライアンスに関するアンケートを実施しました。「コンプライアンス解説ハンドブック」や「ポイント解説」に対する評価・活用状況や自部門のコンプライアンスの現状等について調査を行い、その結果を施策に反映しています。

標的型メール事故防止訓練

サイバー攻撃への対応について、セキュリティ対策製品の導入やパソコンのウイルス対策はもちろんのこと、未知の脅威やウイルスの侵入をいち早く検出する仕組みを導入しています。

また、最近急増している標的型メールによる情報漏えい事故を未然に防ぐため、標的型メールの受信を想定した訓練をグループ全体で実施しています。



社内通報制度

不正、違法、反倫理行為の早期発見と迅速な是正のために、「社内通報制度」を導入しています。当社グループの全役員・従業員が、社内窓口または外部窓口(弁護士)のいずれかを選択して利用できます。





データ編

環境活動のあゆみ

1998年	「環境経営理念」・「環境経営方針」を制定 環境経営革新運動「JEEEP」を導入
2000年	環境経営革新運動「JEEEP」の業績優秀者を表彰する制度を開始
2001年	「環境経営推進委員会」を設置 「環境経営推進委員会」を受けて「全社環境委員会」を設置 滋賀工場、石川工場、土浦つくば工場においてISO14001の認証を取得 第1次環境3ヵ年計画を策定 地球環境調和型製品基準を制定 グリーン購入基準(事務用品)を制定
2002年	環境会計を導入 環境報告書の発行を開始 石川工場においてゼロエミッションを達成 グリーン購入基準(資材)を制定
2003年	環境社内監査を開始 紙巻(コア)のない自動梱包用結束バンド「コアレス」が平成15年度資材循環技術・システム表彰「財団法人クリーンジャパンセンター会長賞」を受賞 滋賀工場、土浦つくば工場においてゼロエミッションを達成 第2次環境3ヵ年計画を策定
2004年	広島東城工場、積水樹脂プラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてISO14001の認証を取得 広島東城工場、積水樹脂プラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2005年	環境面のみならず、社会面への取り組みを明確にするため、従来の全社環境委員会を「全社環境社会委員会」に変更 非生産部門の環境活動強化のため、工場環境委員会と並列して「本社環境委員会」を新規に設置
2006年	第3次環境3ヵ年計画を策定
2007年	関東積水樹脂㈱、積水樹脂電子テクノ㈱、ロードエンタープライズ㈱、積水樹脂プラメタル㈱関東工場においてゼロエミッションを達成
2008年	積水樹脂産商㈱、宮崎積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2009年	積水樹脂産商㈱にてFSC認証を取得 「国際生物多様性年 国内委員会(現:国連生物多様性の10年日本委員会)」への協賛 第4次環境3ヵ年計画を策定
2010年	中期経営計画(JEX-2013)を策定、2010年を社会貢献元年と位置づけ 各分野に対する社会貢献活動を推進 滋賀工場、滋賀県日野町綿向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結
2011年	積水樹脂プラメタル㈱、長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」を締結
2012年	北陸積水樹脂㈱、石川県能美市、道林釜屋山林組合等と「企業の森づくり推進事業協定」を締結 第5次環境3ヵ年計画を策定
2013年	「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画
2014年	生物多様性の保全の取り組みとして、滋賀積水樹脂㈱において生き物調査を開始 積水樹脂プラメタル㈱、長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」の満期により、新たに3年間の協定を更新
2015年	滋賀工場、滋賀県日野町綿向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」の満期により、新たに5年間の協定を更新 北陸積水樹脂㈱、石川県能美市、道林釜屋山林組合等と「企業の森づくり推進事業協定」の満期により、新たに3年間の協定を更新 第6次環境3ヵ年計画を策定
2016年	近隣企業と「トンボを通じた滋賀湖東地域の環境保全を目的とした生物多様性保全活動」を開始
2017年	土浦つくば積水樹脂㈱、「穴塚の自然と歴史の会」と里山保全活動を開始 滋賀工場が参画する「生物多様性 湖東地域ネットワーク」の活動が「しが生物多様性大賞」を受賞し、また「国連生物多様性の10年委員会(UNDB-J)」の推奨事業として認定

環境会計

積水樹脂グループは環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれにもなう経済効果を定量的に把握し、評価することで、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。環境会計の手順については、環境省の「環境会計ガイドライン」をもとに当社グループ独自の考えを加えて、共通の環境会計手順書を定めています。また、データの精度向上のために、この手順の見直しを行い、各データの算出と集計を行っています。

■ 環境保全コスト

(単位/百万円)

分類	項目	主な取り組み内容	2015年度		2016年度		2017年度	
			投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	公害防止対策	2	15	2	48	5	48
	②地球環境保全コスト	温暖化防止対策	34	145	61	156	83	170
	③資源循環コスト	資源投入量の削減 廃棄物の削減	35	106	30	181	50	120
(2)上・下流コスト		グリーン調達 地球環境調和型製品の特注設計	0	8	2	7	3	6
(3)管理活動コスト		環境マネジメントシステムの構築・運用 環境教育 緑化・美化・清掃活動	0	47	0	31	0	26
(4)研究開発コスト		地球環境調和型製品の研究・開発	12	65	9	54	2	70
(5)社会活動コスト		環境関連展示会への出展	0	1	0	1	0	0
(6)環境損傷対応コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復	0	0	0	0	0	0
合計			84	387	104	478	144	441

(単位/百万円)

項目	2015年度	2016年度	2017年度
当該期間の投資額の総額	1,114	594	884
当該期間の研究開発費の総額	956	1,009	964

■ 環境保全効果

(単位/百万円)

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス	2015年度		2016年度		2017年度	
		2015年度実績	環境保全効果(2014年度との差)	2016年度実績	環境保全効果(2015年度との差)	2017年度実績	環境保全効果(2016年度との差)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電気使用量(kkWh)	35,553	▲ 577	34,973	▲ 580	34,161	▲ 812
	燃料使用量(kGJ)	124	13	112	▲ 12	102	▲ 10
生産活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	生産時のCO ₂ 排出量(千トン-CO ₂)	22	1	21	▲ 1	20	▲ 1
	廃棄物発生量 有価物除く(トン)	1,170	17	1,277	107	1,220	▲ 57

■ 環境保全対策にもなう実質的経済効果

(単位/百万円)

効果の内容	金額		
	2015年度	2016年度	2017年度
リサイクルによる有価物売却収入	15	17	22
省資源による費用削減	91	55	90
省エネルギーによる費用削減	7	2	2
リサイクルによる廃棄物処理費用削減	0	1	1
その他	0	0	0
合計	113	75	115

対象期間:2017年4月1日~2018年3月31日 集計範囲:対象事業所は以下のとおりです

①工場

- 滋賀工場 ●土浦つくば工場 ●石川工場

②上記工場内に活動主体がある部門

- 事業開発部 ●滋賀積水樹脂(株) ●土浦つくば積水樹脂(株) ●北陸積水樹脂(株) ●広島積水樹脂(株)
- (株)積水樹脂技術研究所 ●積水樹脂物流(株) ●オーミテック(株)

③関係会社

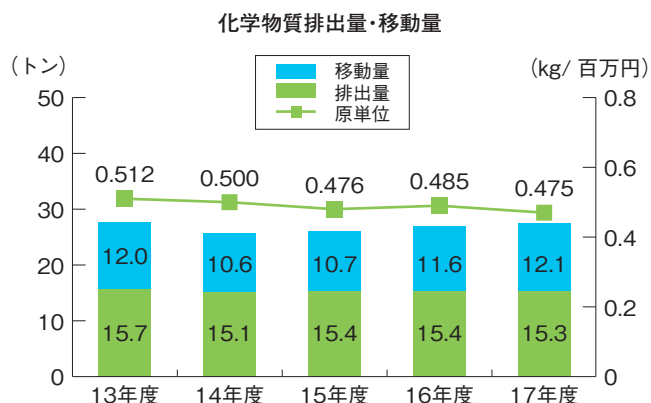
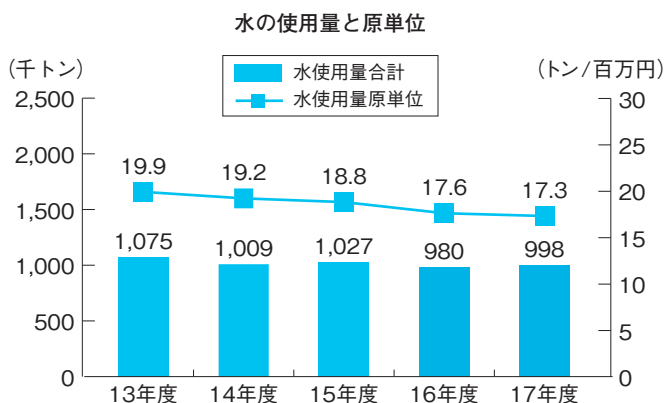
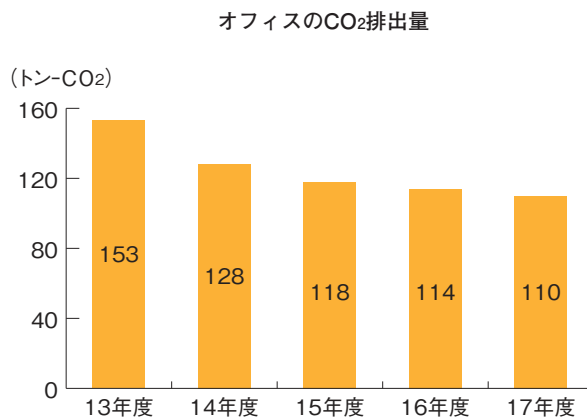
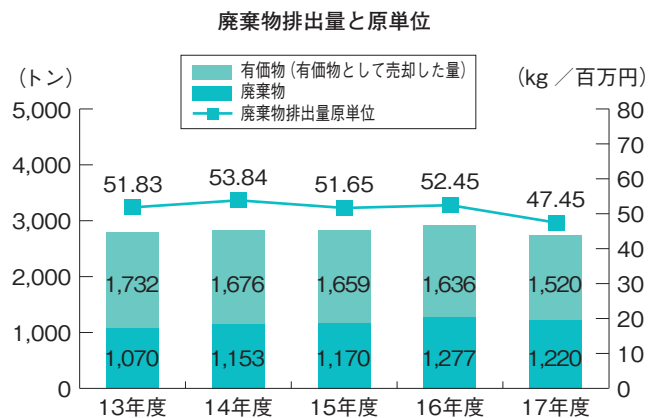
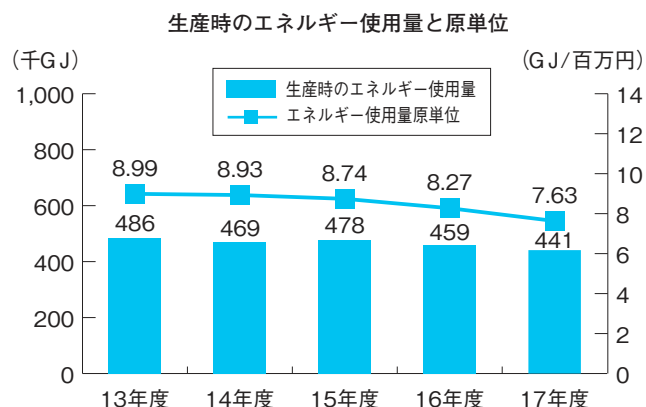
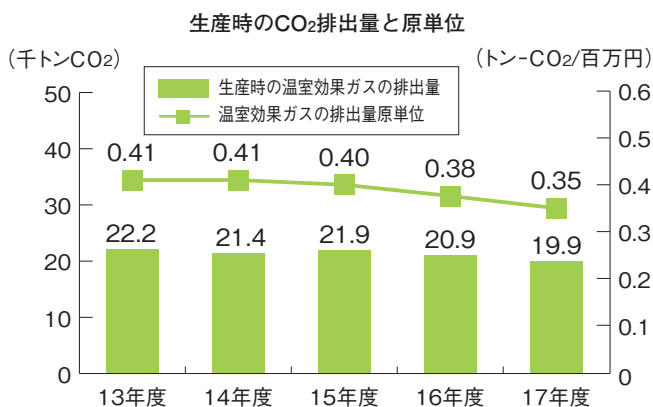
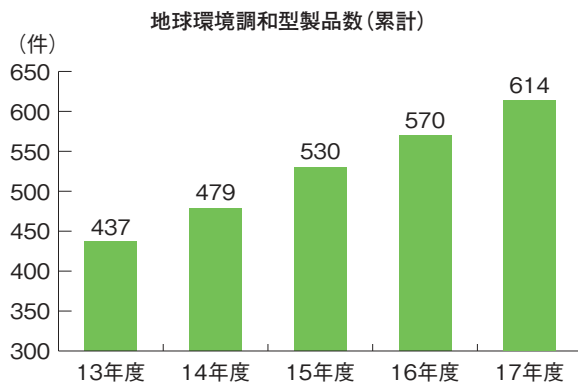
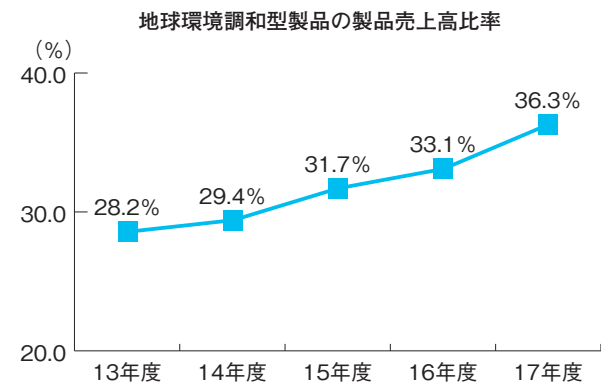
- 積水樹脂プラメタル(株) ●東北積水樹脂(株) ●積水樹脂産商(株) ●エスジェイシー寿(株) ●宮崎積水樹脂(株)
- ロードエンタープライズ(株) ●関東積水樹脂(株) ●スペースシア(株) ●サンエイポリマー(株)
- 積水樹脂キャップアイシステム(株) ●日本ライナー(株)

第6次環境3ヵ年計画(2016～2018年度)
2017年度の実績

◎:達成度100%以上 ○:達成度90%以上
△:達成度90%未満 ×:基準年より後退

取り組みの項目			第6次環境3ヵ年計画 (2018年度目標値)	2017年度 目標	2017年度実績	2017年度 評価	
事業・製品による 環境貢献	地球環境調和型 製品の拡大	地球環境調和型製品の 売上拡大	地球環境調和型製品の 売上高比率35%以上	34.0%	36.3%	◎	
		地球環境調和型製品の 開発促進	地球環境調和型新製品数 平均40件/年 以上	40件	44件	◎	
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出の削減	国内生産事業所 (関係会社含む) ※関係会社はオフィス部門も含む	CO ₂ 排出量を原単位 2015年度比3%以上削減	2.0%	12.5%	◎	
		海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	CO ₂ 排出量を原単位 2015年度比3%以上削減	2.0%	2.7%	◎	
		国内オフィス (支店営業所)	CO ₂ 排出量 2015年度比3%以上削減	2.0%	6.8%	◎	
	営業活動による CO ₂ 排出量削減	営業車	ハイブリッド車、電気自動車 導入率90%以上	90.0%	89.2%	○	
	省エネルギー の推進	国内生産事業所 (関係会社含む)	エネルギー使用量を原単位 2015年度比3%以上削減	2.0%	12.7%	◎	
		国内輸送時	エネルギー原単位 2015年度比3%以上削減	2.0%	1.1%	△	
	資源の有効活用	廃棄物削減	国内生産事業所 (関係会社含む)	廃棄物排出量を原単位 2015年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	2.0%	8.1%	◎
			海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	廃棄物排出量を原単位 2015年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	2.0%	9.6%	◎
		国内オフィス (支店営業所)	コピー用紙使用量 2015年度比3%以上削減	2.0%	13.8%	◎	
	化学物質削減	国内生産事業所	PRTR法に基づく化学物質排出量 原単位2015年度比3%以上削減	2.0%	0.5%	△	
環境貢献活動	生物多様性の保全活動拡大	森林保全活動参加者:450名 (2016年度～2018年度 延べ参加人数)	300名	255名	△		
		琵琶湖環境保全活動参加者:100名 (2016年度～2018年度 延べ参加人数)	60名	62名	◎		
		海外拠点における環境保全活動の実施	継続	マングローブ植林活動(タイ)	◎		
		事業所に生息する希少種の保全	継続	生物多様性湖東地域ネットワーク活動 人工池の希少種保全 希少種エリアの環境整備	◎		
	環境コミュニケーションの拡大	自然環境保護団体との連携及び、 活動支援を継続	継続	「国連生物多様性の10年日本委員会」 「SATOYAMAイニシアティブ 推進ネットワーク」 の協賛・参画の継続	◎		
		地域との環境コミュニケーション	継続	各事業所における地域清掃	◎		

主要な環境パフォーマンスの推移



2017年度のPRTR法 対象化学物質の排出量・移動量

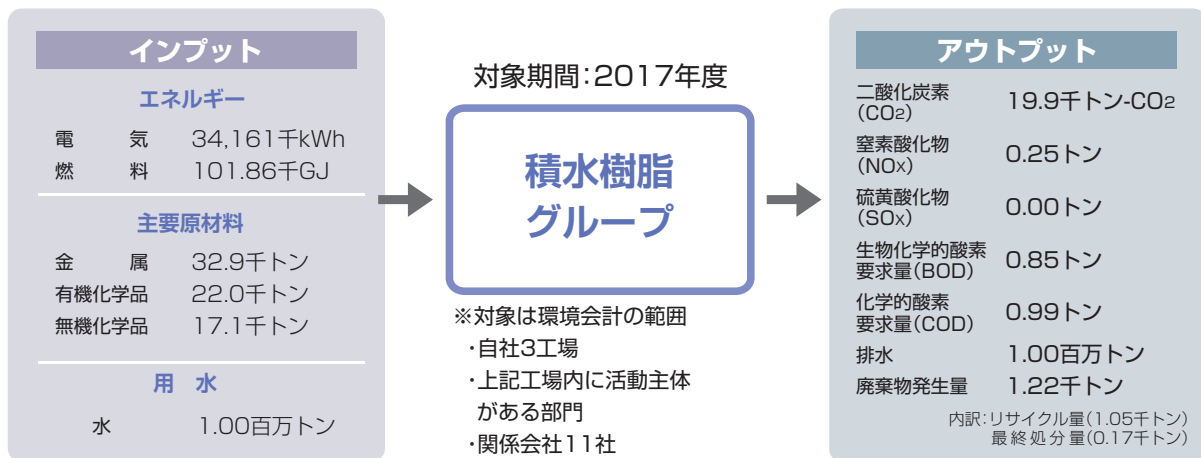
PRTR法に基づく対象物質排出量・移動量の集計結果は以下のとおりです。

PRTR対象化学物質名	単位	2017年度実績						
		取扱量	排出量			移動量		場内無害化 ※1
			大気への 排出量	公共用水域 への排出	当該事業所 における 土壌への排出	下水道への 排水の移動	廃棄物の 当該事業所の 外への移動	
総 量	トン	123.18	15.34	0.00	0.00	0.00	12.06	58.90
(内訳) ※年間取扱量 0.5 トン以上のみ記載								
キシレン	トン	35.00	5.09	0.00	0.00	0.00	3.03	26.87
エチルベンゼン	トン	33.27	3.82	0.00	0.00	0.00	2.77	26.68
フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	トン	15.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
鉛及びその化合物	トン	15.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00
トルエン	トン	12.28	5.95	0.00	0.00	0.00	5.96	0.37
1, 3, 5-トリメチルベンゼン	トン	5.54	0.44	0.00	0.00	0.00	0.14	4.96
6価クロム化合物	トン	3.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール	トン	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
ニッケル化合物	トン	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(※1) 場内無害化: 製造プロセスにて発生した溶剤ガスを焼却分解し無害化したものです。

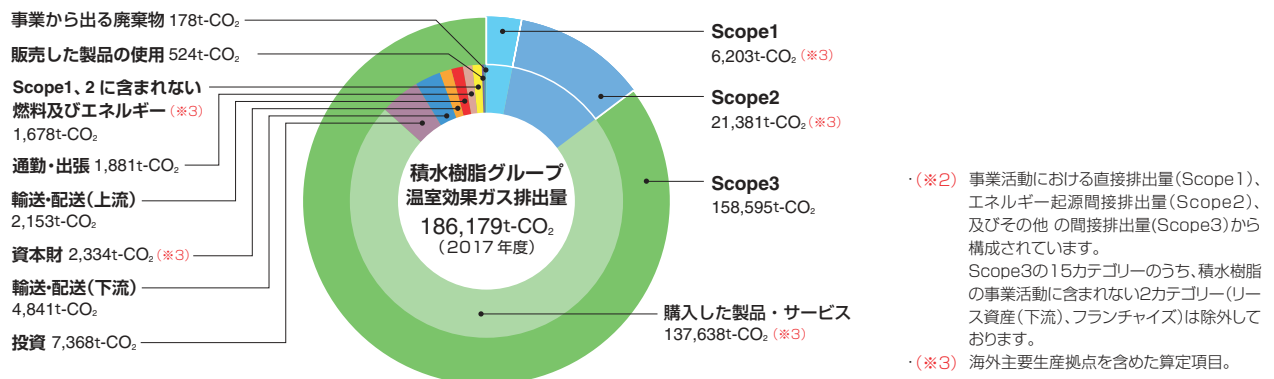
マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギー、原材料などの「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えに基づき環境会計の中で集計しています。



サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省・経済産業省)」に基づき社内算定基準を策定し、原料調達から廃棄までサプライチェーン全体における温室効果ガス(※2)の算定に取り組んでいます。



ISO14001 認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	2001年1月19日 JQA-EM1275	・鉄骨加工製品、塗装製品、樹脂押出成形製品、交通安全用品等、その他電子製品の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・株式会社積水樹脂技術研究所 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門 ・オーミテック株式会社
石川工場	2001年3月30日 JQA-EM1487	・PPバンド、ポリエステルバンド、被覆鋼管支柱及び射出成形品の製造 ・ストレッチ包装機の設計及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	2001年6月15日 JQA-EM1614	・路面標示材、メッシュフェンス及び手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
積水樹脂プラメタル(株)	2004年8月27日 JQA-EM4182	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属・樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
東北積水樹脂(株)	2004年12月6日 C2016-01912	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	
土浦つくば工場 広島東城製造所	2005年3月18日 JQA-EM4627	・路面標示材及び薄層カラー路面舗装材の製造	・広島積水樹脂株式会社
スペースシア(株)	2006年10月10日 EC 06J0142	・全社統括業務及び組立パイプシステム製品の開発、製造、販売	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●無錫積水樹脂有限公司

ISO9001 認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	1998年12月11日 JQA-2853	・メッシュフェンス、防護柵、防音壁、街路照明柱、シェルター、交通安全用品、樹脂押出製品、標識柱、道路反射鏡、計測器(繊維製巻尺)の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門
石川工場	1999年3月5日 JQA-3133	・PPバンド、ポリエステルバンド及びプラスチック線(エクセル線)、被覆鋼管支柱直管の設計・開発及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	1999年8月6日 JQA-QM3615	・メッシュフェンス、路面標示材、手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
日本ライナー(株)	2001年2月15日 MSA-QS-937	・道路付属施設(標識、遮音壁、防護柵、トンネル内装、路面標示)及び土木構造物の補修に関する設計及び施工	・品質保証部、営業本部、管理部 ・標示技術部(標示1グループ) ・北日本支店 ・東北営業所 ・関東営業部 ・中部支店 ・西日本営業部
エスジェイシー寿(株)	2002年7月26日 Q0914	・道路標識の設計、製造及び施工 ・道路付属施設(マーキング、防護柵、反射鏡)の施工	・鈴鹿営業所
積水樹脂プラメタル(株)	2003年7月25日 JQA-QMA10252	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属・樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
土浦つくば工場 広島東城製造所	2004年3月26日 JQA-QMA11212	・路面標示材、エポキシ樹脂を除く薄層カラー路面舗装材の製造	・広島積水樹脂株式会社
東北積水樹脂(株)	2004年12月6日 C2016-01911	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標などの交通安全用品の製造	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●Sekisui Jushi Strapping B.V.
●Sekisui Jushi Philippines Group. ●無錫積水樹脂有限公司

積水樹脂グループ「環境・社会報告書2018」アンケートのお願い

積水樹脂グループの「環境・社会報告書2018」をお読みいただきありがとうございました。今後、さらに環境ならびに社会的な取り組みを進めるとともに、わかりやすい環境・社会報告書を作成するために、皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。お手数ですが、右記のQRコードをスマートフォン等で読み取り頂き、アンケートに御協力いただければ幸いです。



積水樹脂グループ 環境・社会報告書2018 アンケートHP
<http://www.sekisuijushi.co.jp/form/envirioment/>



本 社

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3204 FAX:06(6365)7181
URL: <http://www.sekisuijushi.co.jp/>

東京本社

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目11番1号 ニューピア竹芝ノースタワー12F
TEL:03(5400)1801 FAX:03(5400)1833

お問い合わせ先

コーポレート部

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3288 FAX:06(6365)7181

生産技術部

〒520-2596 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
TEL:0748(58)2488 FAX:0748(58)3326



当社は「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)サポーターとして様々な活動を支援しています。



当社は「公益財団法人交通遺児育英会」の活動に協賛しています。

